

Passo a Passo

目 次

1 はじめに「ひとに教えるということ」	3
——専修大学教職課程協議会委員長 文学部教授 亀井 明德	
2 特別寄稿「英語科教員養成19年」	4
——専修大学文学部教授 伊部 哲	
3 特別寄稿「司書課程が果たすべき役割」	6
——専修大学文学部教授 後藤 暢	
4 教職課程	9
5 司書・司書教諭課程	27
6 学芸員課程	33
7 データ編	39

ひとに教えると言うこと

専修大学教職課程協議会委員長 文学部 教授 亀井 明德

教 育実習の訪問指導をさせていただき、教えるということの難しさを、わが身にふりかえり、実感させられた。

わたしが指導したのは、日本史の古代から中世にかかるところの政治史・経済史の授業であった。その実習生は、すべり出しはきわめて魅力的で、周到に準備してきたとみられる教材を提示し、ざわめく生徒の眼を注目させ、自分のペースに引き入れた。身近な問題のなかから中世的世界との結びつきを探り出させ、問いかけを生徒にさかんに発し、これはうまいと感心させられた。

ところが、本論に入ると、鎌倉初期の混乱した政治史については、史実の羅列にちかくなり、なぜそういう事態が発生し、不幸な結末になってしまったのか、よく解らず、単調で、無味乾燥した授業形態になる。歴史の授業にとって肝心の時間軸を確認することも忘れてしまい、いつの出来事なのか漠然としてしまう。ついで、経済史としての荘園制は、高校生にはもっとも教えるにくい部分といわれ、多くの教科書の記述も混乱していると指摘されている。おそらく専門家でもてこずる個所であるが、授業はますます索漠としたものとなり、生徒のざわめきと無関心が教室にひろがり始めた。

長年の経験を有するベテラン教師ならば、こういう状態から脱出する術を心得て、もう一度、生徒を集中させるのであろうが、実習生にとって、それは至難の技であり、結局、挽回がならず、終了のチャイムが鳴ってしまった。

導入部分が絶好調であったのが、なぜ本論にはいると、さめた、つまらない授業になってしまったのであろうか、私ならば、はたして巧みにできたのであろうか、と自問してみた。その実習生が、大学で中世史の専攻ならば、授業のやり方が巧みでなくとも、もう少し史実にたいして掘り下げた理解ができ、解らない部分を分け、わからせることに成功したかもしれない。教師はテクニックではなく、つまるところ、自分がいかに理解しているのか、その深さをもって相手に訴えるのであろう。

それにしても授業は、おそろしい。話し言葉は、推敲ができないからである。自分自身の講義が、一方的に自説を述べまくり、よしとしていることを深く反省させる高校訪問指導であり、実習生に教えられたことに感謝したい。

博物館の館務実習の訪問指導においても、同じような状況がでている。普及活動の一環として、夏休み子供教室などの指導を実習生が担当するケースでは、博物館資料を子供に説明するのに、正確な知識だけを並べても、子供は振り向いてくれない。目線を低くして、かれらの心の琴線にふれるような言葉をいかに発せられるか、これもまた自分ならばできるのか、自省させられる。職業としての教師にとって、ひとに教えることの難しさがつねに問われている。

英語科教員養成19年

文学部 教授 伊部 哲

はじめに

英語科教員養成担当者として入職してから早19年が経とうとしています。多くのいい出会いがありました。採用が最高に厳しい時点で去ることになりますが、それなりの満足感をもって退職できそうに思います。というのは、英語英米文学科の卒業生には指導主事や校長先生がいますが、私が教えた山形進さん（中学校）が2003年4月発令で北九州市の指導主事になり、2004年4月からは神奈川県派遣で荒川憲行さん（高校）が鳴門教育大学の大学院で2年間研修することになったからです。教えた人にはほかに研究会や英語学習に関する書物の出版などで活躍している人たちがいます。私は英語教育を専攻したわけでもなく、教員養成経験もなく入職したのですが、都立高校での経験を土台に、手探りをしながら、それなりのものを築くことができたと思っています。

英語という科目では、教える事項もさることながら、教え方が大きな問題であり、そこに焦点を当てて、私のしてきたことをまとめたいと思います。

1. 私の英語教育の原点

いきさつがあって最初4年間教えることになった私立女子中学校時代は、ペーパーバックシリーズを読みあさっていた覚えがあるだけで、何をどう教えたかは記憶にありません。

移った都立九段高校はちょうど都の英語の研究協力校になっていて、よく指導主事が学校にみえ、話し合いが行われ、授業もよく見られました。当時九段高校では、大正から昭和にかけて文部省によって招かれ日本の英語教育の改善

に尽くしたHarold E. PalmerのOral Methodをかなり取り入れた教え方をしていました。広く行われていた文法・訳読法とは異なり、口頭練習を重視した教え方で、説明や指示などは可能な限り英語で行い、生徒も可能な限り英語で応答しました。全員進学の学校ですが、やればできるものだ、と強く感じると同時に、高校でふつうに行われていた文法・訳読法を批判的に見るようになりました。

英英辞典を使わせたり、多読をさせたり、高校に必要な語彙を選定したり、やせていた体がさらにやせるほどの日々でした。

また、CWAJという英語を母語とする大卒女性の会が都立高校の英語教育に手を貸してくれることになったのも九段高校での会議が出发点でした。週に1回ずつ3人のアメリカ人女性が私たちの授業を助けてくれました。それは40年くらい前のことで、今のALTという主として英語圏からの年間6,000人ほどの英語指導助手制度を先取りしたようなものです。その関係もあり、10年ほど前に文部省のALT向けの英語によるガイドブックの執筆にも関わりました。ついでながら、教育行政に関しては、平成元年発表の高等学校学習指導要領の作成協力者にもなりました。

九段高校の後、都立新宿高校に9年いました。名門進学校でしたが、ここも音声を重視するOral Methodの流れの中にいて、結局、言い過ぎかもしれませんが、2校しかなかった音声重視の都立高校のその2校を経験することになりました。その間、高3のクラスを引き連れてPalmerの流れを引く語学教育研究所の全国大会で公開授業を立教大学の講堂で行ったり、東京都教育委員会のお手伝いをし

たり、いろいろな研究会に関わらせていただいたりしました。その後、東京家政大学、専修大学と転任します。

このようなわけで、高校で今でも広く行われている文法・訳読法を批判的に見るようになり、ついで英語教育の書物や論文を読むようになり、何となく自分なりの考えを持つようになり、ものを書くようにもなりました。同僚であった立派な先生方に刺激されてのことであり、振り返って感謝の念でいっぱいです。

2. 専修大学での英語科教員養成

“私の英語教育の原点”で述べたようなわけで、教職科目の授業ではまず学生のいわゆる“受験英語”に関わる英語学習に関する思いこみを打破することから始めることにしてきました。英語英米文学科の学生は、伝統的な英語教育・学習にどっぷりつかりながら、それなりの成績を取ってきた者たちで、その学習法からなかなか抜け出せません。

特に重視してきた点は次のようなものです。

(1) 最終目標を確認する

英語は手段であって、それを使って、人と考えや気持ちを伝え合ったり、新しいことを知ったり教えたりする手段のはずです。英語の習得は最終目標ではないはずです。

しかし、高校でふつうに行われている授業では、英文を読むとして、文法・構文で分析しながら日本語に訳させ、解説をして覚えさせる、という手順を繰り返していて、書かれている内容が無視される場合がほとんどです。学習段階であるとはいえ、内容に注意を向ける必要があり、さらには、内容

をどう受け受け止めるかが大切なはずで。

英語と日本語は系統の大きく異なる言語ですから、学生・生徒の言う訳は不自然になり、何を意味しているかわからないことがよくあります。その訳はどういう意味か説明を求めると、立ち往生する学生がよくいます。わかっていないからです。私は「訳す」という言葉を使わせないようにし、「どういう意味か」と聞くことにしています。

あこがれの英会話の授業では、英米人の先生に聞くと、学生は表現を覚えることに懸命でなかなか話そうとしないそうです。英会話は実際にすることによって向上するものなのに、勉強して覚えるものと考えています。

学校では当然英語は勉強するものなのですが、本来使って何かをする手段である、という視点は中学校時代から重視しなくてはならないと強調してきました。

(2) 教える手順を考える

(1) のような考えを実現するにはそれなりの教える手順が必要です。高校では、「生徒による音読→訳→先生による手直しと解説→練習→発展」と進むのがふつうです。意味もわからないうちに音読させる、訳の中身、内容を読み取る途中で長い解説や発展が行われて話の流れが軽視されることが多い、などいろいろな問題があります。

(3) 練習の内容を考える

日本では、英語の練習問題というと、答えが一つの機械的な型の決まった問題をやらせるのがふつうになっています。一つの段階としては書き換えや空所補充などのような機械的な練習も意味があるのですが、一歩進めて、生徒によ

って答えが違ってくるような、本当の意味でのコミュニケーションにつながる練習が必要です。

(4) いろいろな手段を活用する

言語は文字と音声で教えるだけではなく、可能な限り実物や絵や写真などを利用して、言葉を介さず直接的に理解させる工夫をする必要があります。roof→屋根→実物が頭に浮かぶというのではなく、roof→実物が頭に浮かぶ方が身に付いていることになります。

(5) 生徒を授業中に活動させる

生徒は、単に、教師の言うことを聞き、書き写し、覚える人ではなく、授業中に生き生きとしていて、考え、心身を使って学習する人、であるべきです。英語は講義科目ではなく、演習科目だからです。

3. 英語科教員養成の現状

このような思いで英語科教員養成をしてきましたが、残念ながら思うことが実現したとは言い切れません。いろいろな状況を勘案すれば当然なことです。学生の考え方はかなり変えることはできるのですが、いざ模擬授業となると元の木阿弥になることが多いのです。実習での授業となると、中学校は大きく変わりましたが、高校は改革が遅々として進まず、伝統的な型どおりの教え方で教えさせられることが多いのも事実です。その方が、教える項目がほぼ決まっています、特に工夫する必要もなく、先生には楽なのです。高校の先生は大学受験をいいわけに使っている、と皮肉を言いたくなります。

行政も、「英語ができる日本人育成のための戦略構想」とか、英語教育特区、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール、突如出てきた全英語教員の研修、

などといって格好をつけていますが、確固とした言語教育政策があるとは考えられません。それに、40人学級で使える英語を教えることなど到底無理です。

しかし、悪条件の中、改善の方向が見えてきているのも事実です。中学校はかなり進んでいます、今度はその進み方にはいささか疑問も感じます。

本学では、卒業生の英語教員を対象にして、伊部が個人的に14年前に立ち上げた研究会が、「専大卒英語教員の会」から「専修大学英语科教育研究会」へと名前を変え、大学の支援も受けて、続いています。消息不明になった人もかなりいますが、私の名簿で連絡の付く人は130名程度います。毎年夏休みに、書物を出した人、研究報告書を出した人、研究会で発表した人、研究会で活躍している人、などを招いて話してもらい、話し合いを持ち、卒業年次を超えたつながりや帰属意識もある程度できています。この会が続き、卒業生が帰属意識を持ち続け、連帯して活躍することを祈ります。



司書が果たすべき役割

文学部 教授 後藤 暢

司書課程は本来、図書館司書になることを目的に履修するはずであるが、近年学生の図書館への就職希望は必ずしも多くはない。

毎年司書課程3年生を対象に進路についてのアンケート調査を実施している。次の年度にいよいよ就職本番を控え、各人がどのような進路を希望しているかを知るためである。さらに希望者には、専任教員が個別に面接して、就職相談や、司書関係の募集状況の情報提供などを行っている。調査票を出した学生の中で、図書館への就職を希望する者の数と比率は図1のとおりである。

年度	回答者数	うち図書館への就職を希望	図書館希望率(%)
1999	30	9	30
2000	26	7	27
2001	24	8	33
2002	36	17	47

図1

図書館への就職を希望しない学生はこの調査票を提出しないことがあったりして、回答者数は実数、すなわち次年度の4年次の履修者数よりも少ない。だから司書課程学生中の図書館就職希望者の比率はもっと少なく、20~30%程度であろう。図書館への就職を期待しないが司書の資格は取りたいという人が多いのが実情である。このことをどう考えればよいのであろうか。

図書館への就職を希望しない学生は大部分民間企業を希望し、ごく一部は公務員、教師、あるいは大学院等への進学を希望する。また図書館を希望しても実際に図書館に就職できるものは少なく、民間企業等に転ずる者も少なくない。全国的にみても、1999年の調査によれば、大学・短大における司書資格取得者は10,306名だが、図書館への就職者

の概数は200名に過ぎない¹。

このような状況になったもっとも大きな原因の第一は、全般的な学生の就職難によるものである。司書は本来、図書館法にもとづき公共図書館の専門的職務に従事するための資格で、そのほとんどが公立図書館であるから、まずその図書館を設置する都道府県や市区町村の公務員として採用されなければならない。公立図書館の館数は増えつづけているにもかかわらず、正規職員の定数はむしろ減っている上に、企業の採用減のため自治体職員の採用試験に応募者が殺到し、どこも大変な競争で、

首都圏だと数百倍という倍率も珍しくない。かつて1970~80年代、自治体志願者が少なく求人難だった時代とは隔世の感がある。

第二に、図書館司書有資格者の配置が減少していることによる。少なくなった職員定数(正規職員)のうち、司書資格のある者はさらに減っている。日本図書館協会の調査によれば、全国の公共図書館職員に占める司書有資格者の比率はここ数年減少の一途をたどり、2002年度は48.9%に低下した²。

このような厳しい状況により学生の図書館への採用は難しくなっている。それにもかかわらず、司書課程を履修する学生は、むしろ増えている。1年生で司書課程科目を履修し始める学生は、数年前まで70~80名位だったが、このところ100人を超えている。中には2年、3年になってから履修を始める学生もいる。就職が難しいことがわかって、最後まで履修したいという学生が依然

として多い。学生の履修の動機を聞いてみると、多かれ少なかれ図書館に魅力を感じていることはほぼ共通している。近年図書館利用者が増大し、人々の生活の中に図書館が根をおろしてきたことの現われであろう。

履修者が増えている司書教諭課程も同様であろう。こちらは別の要因もない訳ではない。司書教諭は教師の補職になっているから、司書教諭の資格を取りたい人は教職課程の履修者に限られる。図書館にはあまり関心がなかったが、教諭になるために司書教諭も取っておきたいという人もいる。しかし大部分の履修者は、やはり図書館が好きであり、特に小中高校のどこかで出会った司書や司書教諭に大きな影響を受けた人が多い。

このように、司書や司書教諭の仕事が注目され、課程履修希望が増えていることと、図書館への就職の可能性が狭められていることが、同時に進行しているのが、現在の両資格課程の特徴である。資格課程本来の目的が、専門職を養成する職業教育であるとするならば、この矛盾を、どう捉えるべきであろうか。

実は、図書館を運営するために必要な専門的業務は、決して減っていない。

日本では、公共図書館の館数は増え続け、昨年度図書館数は全国で2711館となった。前年度に比較して12%の増大である³。しかも利用の拡大に対応するため次第に大型化の傾向にあり、極端な例では、県立図書館と見まがうほどの規模の町立図書館が新設される例すらある。それにもかかわらず職員定数は減少し、非常勤職員、嘱託、臨時職員が増えているのが大きな特徴である。しかしこれらすべての職員を合計すると、昨年度は前年度よりも約8%

増となった⁴。図書館で働く人の総数は、明らかに増えている。

量的のみならず、利用者の多様化が進むに伴って、公共図書館の提供するサービスの内容もそれに充実することが求められており、その結果職員の専門性はより深化し、拡大する。貸出しと平行してレファレンス・サービスの利用が増えているのも、また「ビジネス支援」の機能が公共図書館に求められるようになってきたのも、その具体例である。このような変化に敏感に対応し、図書館のサービスを絶えず改善し市民の要求に応えていくため、今日本の公共図書館には、十年一日の繰り返しではなく、利用者の要求とその背景にある社会の変化を読み取った戦略的な図書館経営が求められる。そのため公共図書館は、専門的力量的な職員を置く必要に迫られている。

司書資格をもった嘱託や非常勤職員が増えているのは、日常最小限の図書館運営だけの必要性の現われである。結果的にみると、専門的職員としての司書は要求するが、正規職員としてでなく嘱託・非常勤・臨時などの身分で採用する部分が増えているのである。さらに、これに加えて、近年は派遣職員や業務委託先の職員として、従来の正規職員の代替に充てられることすら起こっている。司書資格者は大量に養成されているが、前述のように図書館への就職者はわずか2%程度であるから、身分・待遇を切り下げても人材は容易に得られるとみられたのであろう。

図書館での業務委託が成り立つためには人件費を最小限に抑える必要がある。おそらく委託を受けた企業も、供給過剰の司書資格者を雇用し図書館に送り込むことが可能と判断していたのであろう。しかし実際には、臨時職員募集にすら司書資格者が殺到したここ数年の傾向にもかか

わらず、委託の場合、あまりの低賃金のため司書資格者を確保することができず、司書資格も経験もない人たちに委ねる結果になっている例がある。

さらに、統計には表れないが、近年の注目すべき動向として、図書館へのボランティア参加が増えてきた。行政がこれを推奨する傾向もある⁵。図書館の運営の一部がボランティアに支えられる場合もある。

図書館にとって必要な専門的職員の労働を低賃金化、あるいは無償化するような動向は、司書課程にとっての就職市場を狭めるだけでなく、市民の図書館利用要求にこたえる上で、決して望ましいものではない。このような行政姿勢を改め、司書を採用し配置するよう、働きかけて行くことが必要であろう。しかし同時に、今日の状況は、かつて考えられなかった新たな役割を、大学の図書館学教育に求めているのではないだろうか。

ボランティアは本来市民の社会参加活動であって、職員の代替ではない。ボランティアに参加する市民は、当然のことであるが一人一人自分の考えをもつ自立した市民であって、参加すると同時に発言もする。図書館を支援するときもあれば批判することもある。一部の図書館で、あたかも職員不足を補うため無償の労働力として導入するような例があるが、「ものいわぬ市民」を期待するのであれば失敗するであろう。

1970年代以降、住民が図書館設置を要求する動きが各地に現われた。最近では市民が公共図書館を守ろうとして発言したり、図書館協議会などの場を通じて図書館の運営に提言を行ったり、ボランティアとして図書館の活動に参加する事例も時折見られるようになった。図書館は市民によって作られ、また支えられ

る時代である。司書と同様か、場合によりそれ以上に図書館について知っている市民も珍しくない。あらゆる知識・情報が開放される現代では、専門職は専門知識を独占することによって専門職たり得ているのではない。もっとも専門的である医学知識でさえ、部分的には秘密ではなくなっていることをみれば明らかであろう。図書館司書は専門知識だけでなく、市民や社会の変化に対し洞察力をもち、経営能力を発揮する力量が求められるのであり、一方市民の中に、図書館の役割や図書館員の専門性について理解を持つ人が存在し、しかも必要になるであろう。

司書課程や図書館学教育は図書館員だけを養成しているのではなく、図書館を考える市民を育てている。今後もその役割を負わされるであろう。

- 1 「日本の図書館情報学教育 2000 平成11年調査」 日本図書館協会 2000
- 2 「日本の図書館 2002」 日本図書館協会 2003
- 3 同上
- 4 同上
- 5 「社会教育施設におけるボランティア活動の促進について」(1986年12月 社会教育審議会答申)あるいは「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」(1998年9月 生涯学習審議会答申)など

教 職 課 程

Index

1	対話ということ	10
	文学部 助教授 高橋 龍夫	
2	卒業生から	12
3	教員採用試験体験記	16
4	教育実習生から	20
5	介護等の体験を終えて	26

対話ということ

文学部 助教授 高橋 龍夫

2 003年4月より高橋貢先生の後任として香川大学教育学部より転任してきました。教職課程では「国語科教育論」と「教育実習・・・」を担当しております。専門は主に日本近現代文学ですが、かつて7年ほど高等学校に勤務し国語を担当しました。

近年は教員採用試験もかなり厳しくなりましたが、私が受けたころは募集人員にもゆとりがあって、おかげでパスすることができたようなものです。最初の赴任校は那須高原のふもとの自然に恵まれた環境にある普通高校でしたが、学力レベルではかなり低い学校でした。実際、古文や漢文の授業は、生徒が教科書を正確に読めるまでにかなりの時間を費やしましたし、素行や学習意欲の面での配慮が常に必要とされ、授業のための教材研究に加え不慣れな生徒指導に自分なりに精一杯努力する日々でした。3年生ともなるとクラスの3分の1ほどが退学となって机が大分余っていた教室もあり、職員会議は生徒の処分や対処に連日あけられていました。ですが、学力にも素行にも問題の多い生徒達は意外にも学校に少なからず所属意識を抱いていました。たとえば、月に何度かの服装検査（これは私が若かったせいもあって、一番不必要なものだと思っていました。）をすると、生徒達は逃げることなく廊下に順番に並び、担任と副担任のチェックを受け、ズボンが太いか髪を染めているとか指摘されることにまんざらでもない様子です。その理由は、勤務するうちに少しずつわかってきました。家庭環境などに何らかの問題を抱えている生徒が少なくなく、学校で先生に注意されたり話題にされることが、かえって自分の存在に注目しても

らえる証となっていたのです。中学では学力の面で注目されず、地域や家庭でも放任もしくは疎外され、自分の存在を認めてもらう機会に甚だしく欠けている状況に置かれていました。高校在学中に退学させられた生徒が退学後も時々校庭にバイクを乗り入れて職員室を騒然とさせましたが、彼らにとっては叱るという形で自分の存在を認めていた学校への無意識の未練がそういった行動に駆り立てていたともいえます。問題行動発覚後では教師・生徒ともに不幸な関わりになってしまうのですが、そうなる前に、授業やその他様々な場面で会話を心がけたりともに行動することで日常的に生徒一人一人の存在価値を認めることが、教師としての大切な役割なのだと実感した次第です。

次に勤務したのは都内でも有名な進学校でした。赴任した当初は、小学校から英才教育を受けてきた生徒たちに驚異と奇異のまなざしを向けてしまいました。授業や試験に熱心なだけでなく、様々な行事やクラブ活動の運営に自発的に取り組む生徒たちに、学園というものの理想の姿すら感じました。比較的生活水準や社会的地位の高い家庭環境に育った彼らに、ある種の羨望さえ抱いたこともあります。当然ながら教師に必要とされたのは、やはり授業の中身でした。特に3年生ともなると、授業の質を吟味する眼が鋭くなり、あまり役立たないと判断すると英語や数学の自習を始める生徒も少なくありません。ここで鍛えられたのは、教材研究への取り組み方で、教科書教材に対する知識や分析はもちろんのこと、教材の内容を踏まえた応用・発展学習の準備がかなり必要とされました。おかげで大手

の書店や図書館に足を運ぶ回数も自然と増え、年々体系的な知識が蓄積されていき、毎時作成したプリントを2年と使い回しすることはありませんでした。しかし、いくら自分の知識量や読書量が増えたからといって授業がうまくいくわけではありません。授業が楽しいと思えるようになったのは、やはり生徒たちと対話しつつ、生徒自身から発せられた疑問点や発見、そこに至る思考プロセスなどを双方向的にやりとりしながら教材や副教材の理解を深めていくことができるようになってからでした。時には、生徒たちから教えられることもあり、刺激的で貴重な時間だったと実感する授業もあったことを懐かしく思い出します。

わずかな高校教師時代でしたが、地方の普通校と中央の進学校で共通していえることは、生徒のレベルや関心が異なっているも一人一人の意見や思いに耳を傾け、できるだけ対話し、お互いに理解しあうことで教師という仕事の基盤が成立するということです。

ちなみに、国語科の新指導要領では、これまでの理解（受容型）中心の授業から表現（発信型）中心の授業へと移行することが盛り込まれました。たしかにこれまでの授業が板書をノートに写すような講義型方式が一般的であったことは否めません。ですが、表現というものは、それだけで自立するものではないことも、また当然のことです。表現したい内容が表現者の中にモチーフとして存在するのはもちろんのこと、表現環境や表現の場としての信頼関係が成立してはじめて、各自の表現意欲も高まり表現能力も伸びていくのだと思います。教師がその表現意欲の高まりに契機を与え表現方法を

導く役割を十全に担わなければ、生徒たちの表現したものは単なる思いつきのおしゃべりや稚拙な自己主張に終始してしまいます。国語の場合、古今東西の文学作品、知識や思考力を高める評論や情報、時には演劇や講演など、普段接している日常的なメディアでは得にくい表現世界にふれさせるのが教師の役割でしょう。その点では、これまでの理解中心の授業で扱ってきた内容をおろそかにして表現中心の授業に転換しても国語としての教科価値はあまり高まることはないのかもしれませんが、特に、近年は文学教材無用論が見受けられますが、人間の感性や情緒、美的表現といったものにふれることはもとより、私たちの世界を一つの物語として認識し再構成する力を身につけていくことも、教育として決して無駄ではないと思いま

す。言語によって合理的・論理的に割り切ることだけが教育であるとするれば、生徒たちが学校や家庭で喜怒哀楽を抱き、悩んだり夢を抱いたりすることの豊かさはテレビドラマやマンガだけの非言語領域だけに追いやられてしまうことにもなりかねません。学校という存在自体が実は近代以降の論理的構築物だとは思いますが、そういった教育という「システム」であるはずの世界に、あるいはそれだからこそ、というべきなのでしょうが、授業内外での日頃の生徒一人一人との共同作業や対話というものが必要とされるところに、何か教育という簡単には割り切れない営みを解く鍵が潜んでいるように思われます。学校という限られた空間ではありますが、まずはその中の一人一人の存在に関心をもち対話することが、表現環境を眼

に見えない形で整え表現の場を自然に形成していくのでしょうか。

とはいえ、いつの時代も教師としての必要十分条件は、何十年もの対話に耐えうる研究意識を生涯にわたって継続していくことではないかと思っています。これはたんに知識量を増やしたり論文を書くことだけではなく、教育実践方法を現状に合わせて改善していくこと、専門外の読書や見聞を通して思考力や批判能力を鍛えておくこと、様々な発見や驚きを忘れないこと、人々と交流してお互いに刺激を受けること、あるいは体力を維持し健康的な日常生活に配慮することなど、あげればいくらでも浮かんできます。実はいずれも私自身に向けて注文をつけたいことばかりなのですが、……



高校勤務時代最後に担当したクラスのお別れ会風景

卒業生から（社会）

神奈川県横浜市立原中学校教諭 前田 総一郎（平成11年 法学部法律学科卒業）

はじめに～教職という仕事

世の中には人と接するさまざまな職業がありますが、中でも教職は人との関わりが最も大切な仕事であると感じます。生徒だけでなく保護者・地域の人々・仲間の先生方など周りの人々との「結」によって成り立っています。ですから多くの人との出会いや結びつきを大切にしていくことがこの仕事をする上での必要な条件であると思います。また、みなさんも学生時代を思い出してみてください。「あっ、そう言えば…」と記憶に残っている先生が一人くらいはいませんか。中にはその先生の影響で教職を志そうと思われた方もいるでしょう。そのように先生は人の人生に登場し、親以外のモデルになる大人として存在し、子どもにとってその先生との出会いが一生を大きく左右し人生観も変えてしまうこともあるかもしれません。それだけ大きな影響力を持っている責任の重い仕事です。

1. 日々の様子

教師の仕事というと「授業」というイメージがとても強いと思います。教科指導が一番大切な仕事ですがそれ以外にも私の場合は、学級担任、生活指導、生徒会指導（特活指導）、部活動、教員の研修・教育実習の計画実施、地域への学校開放といくつもの仕事を抱えそれを同時に動かしていかなければ

ならないときもあります。成績を出したり、通知表を書く時期などなかなか終わらずにそのまま朝を迎えることもありました。

学校に出勤してからは、気づくといつの間にか日は沈み、生徒の下校を見届けてから初めて職員室の自分の机での仕事が始まります。そのうちに「出前でも頼もうか」という声がかかり、夕食を食べながら仲間との会話が弾みます。そんな同僚との一時も大切な情報交換の場であり私は大切にしています。

2. 採用試験に向けて

面接試験ではぜひ自分を語れる引き出しを多く持ってほしいです。みなさんがこれまで経験されてきたことをまとめ、エピソードやその経験を通して生徒に語れることは何かということを書き出しておくと思いいます。最近の関心のある教育問題についても、私見も含めて用意しておいてください。また、受験地についてなぜ、本県（市）を受験したかという質問もされます。そこではその地域の教育方針（教育委員会のホームページなどを見てください）は頭の隅に入れておき、どの地域でも教師になれば良いという気持ちではなく（本音はそうかもしれませんが

…）絶対にその地域の教員になりたいという強い意志を語ってください。学生時代に学んだ専門についても、卒論のテーマやゼミで研究したことなど、それをいかに現場の教育に活かすかという視点で話せるようにしておくと思いいます。面接



花を持つ前田先生

試験などでは、常に自分が教師としてどうしたいかという視点で質問に答えると意気込みも伝わるとおもいます。

3. 教職という道

昨年、初めて担任したクラスの生徒たちが終業式の日に、大きな花束と合唱コンクールの自由曲を歌ってくれました。写真はそのときのものです。後で聞くとその日のために私の知らないところでみんな練習してくれたそうです。一生忘れることのない心のこもったプレゼントでした。

日々さまざまな生徒と接し、どのようにその子と人間関係を築いていったらよいかと苦労することたくさんあります。しかし学年を重ねるごとに子どもは確実に成長していきます。お礼などぜったい言えなかった生徒から「先生ありがとう」の一言を聞いたときの喜びは何にもかえられません。このときほど回り道をして教師を選んでよかったと感じます。

最後にみなさんへのメッセージですが、私だけでなく学生時代に漠然とした将来に対する不安を抱きながら一緒に勉強をした仲間も教職という夢を果たしています。みなさんも「先生になる夢」を決めてあきらめないでください。

ぜひ専修大学から多くのみなさんが教員として活躍されることを願っています。



二列目右端が前田先生

卒業生から（国語）

山形県私立鶴岡東高等学校常勤講師 吉武 秀豊（平成15年 文学部国文学科卒業）

将

来の夢であった教員生活も早くも4ヶ月が過ぎようとしています。私は、山形県の鶴岡市にある鶴岡東高等学校に常勤講師として勤務しています。現実には教員となってみると、自分の中で思い描いていた教育現場の状況と現実の違い、また教育実習では見えてこなかった苦労や簡単に解決しない問題と向き合う大切さを痛切に感じています。そこで、私がこの4ヶ月で感じたことを述べていきたいと思います。

1. 教科指導について

教科指導力は教員であれば必ずといっていいほど、なくてはならない力だと思います。いかに生徒を惹きつける授業ができるかということが、1回1回の授業の目標にもなるわけです。「授業は生き物だ」とよく言われますが全くその通りで、教壇に立つまでに教材研究だけでなく、担当しているクラスの雰囲気に合わせて自分の気持ちを高めることが大切になってきます。例えば元気が有り余っているクラスには、少し落ち着きを持たせるくらいがちょうど良いので少し冷静な口調で授業を進めてみたり、逆に授業中の発言などがあまり無いクラスは逆に冗談などを言って生徒の気持ちを緩ませてあげることなどです。また学校行事（体育祭や修学旅行）の前後などはそれだけでも生徒達の心理面に考慮した計画が必要になってきます。つまり、最も大事なことはあくまで授業は生徒主体であり、生徒の視点からも授業計画を立てているか、教材研究をどれだけやったかなどではなく、「独りよがり」「理解の早い生徒中心」で授業を成立させてはダメだということなのです。

2. 生徒指導について

私は現在、校務分掌で生徒指導部に所属しています。そこでは学校生活になじめない生徒、服装や髪型など校則の決まりを破り、問題を起こした生徒と接する機会がよくあります。言葉は悪いですが、そういった生徒は教科指導の点から置き去りにされている事が多く、普段から教員とのコミュニケーションが十分にとられていないケースが目立ちます。学校や社会におけるルールを破ったこと自体は悪いことですので、生徒自身に強く反省を促しますが、教員と普段からコミュニケーションしていれば防げたのではないかという問題も多々あるのもまた事実です。またそういった生徒に対応する際に必ず考慮しなければならないのは「保護者との関係」です。これは私たち教員と保護者との関係だけでなく、生徒も交えた三角の関係です。家庭環境は人さまざまですが、実際の生徒と一番身近な存在であるはずだからです。基本的に私の場合は保護者の方が年上であるわけですし、1対1で話をする機会はありません。その時保護者の方に信頼を得るためにはどうすればよいのか、いかにして保護者の方との連携をとって問題に対処していけるかが解決の糸口になるのかと思っています。

3. 最後に

私が常に感じていることは、教育現場というのは「人間同士のぶつかり合い」なのだということです。まだ4ヶ月しか経っていない若輩者が、それに十二分に対応できているかといえばまだまだです。しかし、この私の体験を読んでいる皆さん、頭の中にどれだけ専門

知識があるとか、教育理論を知っているとか、そういったことで教員になれるわけではないのです。教育は机に座って解決するほど生易しいものではありませんよというのを最後のメッセージとさせていただきます。

卒業生から（英語）

神奈川県立旭高等学校教諭 荒川 憲行（昭和61年 文学部英米文学科卒業）

教

員生活も18年目を迎え、現在の勤務校で3校目となりました。若い新採用者が減る中で、今でも“若手”と言われて働いています。これから教職を目指す皆さんに日々の活動の様子や現場が抱えている問題点等をお伝えして、何か参考にして頂ければと思います。

1. 日々の職場

勤務している高校は5年目で、3年の担任で学年主任、部活動はバスケットの顧問をしております。私自身も高校までバスケットをしていましたので、その経験は活かされていますが、今は一緒にプレーするには体力的にきつくなりました。校務分掌は教務、その他に入選委員、英語科主任等をしております。神奈川県の教科研究会英語部会の総務部長・事務局長も兼ねています。勤務時間はというところ、一日の半分は学校にいて、土曜・日曜もほとんど部活動などで学校に出ています。週休2日制になってからは、仕事を5日間でこなさなければならず、授業数減少に伴う学力低下も懸念される中、当然のことながら教科指導にも力を入れていかなければなりません。クラスの生徒で悩みや問題を抱えている者がいれば、保護者と連絡をとり、的確な対応をすることも大切な仕事の一つです。忙しく忙しい毎日、あっという間に一日が過ぎていきます。

2. 英語教育

情報が多き世の中ですから、上に述べた様な教員の現状は、皆さんご存知の事でしょう。英語の教員になったのだから教科だけを教えていけば済む、と思っている方はもういないと思います。現状は教科指導や研究以外の事で、時間



左端が荒川先生

を取られることが本当に多いのです。本末転倒のような気もしますが、多くの教員が同じ思いをしながら日々時間を捻出して英語教育のことを考え、より良い授業の実践に取り組んでいます。

さて、ご存知の通り、このような状況の下、文部科学省は『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」を打ち出しました。生徒が実践的コミュニケーション能力を身に付けられるように（ここでは実践的コミュニケーション能力とは何か、という事はあえて触れませんが）英語教員もより一層の努力が要求されます。また、教員の英語力の目標値として、英検準1級・TOEFL 550点・TOEIC 730点程度という数値が設定されました。私などは目標値とされる試験はどれも受けていないので、今後どれかをクリアするために時間を見つけて勉強していかなければならない事になるでしょう。更に、中学・高校教員6万人対象に集中的な英語研修が始まりました。これらの事は、ほかの教科には見られないことです。

3. これから

以上の内容を読み、皆さんはどう感じられましたか？大変だ、それでもやってみたい等、いろいろでしょう。いま求められている教師の資質は、高い英語力や指導力はもちろんのこと、的確な判断力と行動力、問題解決の為に何事にも努力していこうとする前向きな姿勢と強い信念、体力・気力の充実など、たくさんあります。まるでスーパーマンのような教師ですね。私などは、どれもまだまだですが、これだけ我々に注文があるのは、まさに日本における英語教師に対する期待の大きさの証であると思うのです。これほどやり甲斐のある仕事は他にありません。是非、志を高く持ち、地に足を付けて採用試験合格に向けてがんばって下さい。そして、専大の卒業生として同じ土俵に立ち、問題解決法を論じたり、夢を語り合いたいものです。『教育が国を創る』という言葉に胸に。

卒業生から（商業）

岩手県私立専修大学北上高等学校教諭 小野 貴博（平成15年 商学部商業学科卒業）

こんにちは。僕は平成15年3月に商学部商業学科を卒業した小野貴博といいます。現在、岩手県の専修大学北上高等学校で商業科の常勤講師をしています。今から自分が自分なりに思ったことを少し書かせていただきます。

この専修大学北上高等学校は自分の母校であり、高校時代3年間担任をしていただいた菊池秀雄先生という現在の我が校の商業科長のもとで、僕は今先生をやっています。この菊池秀雄先生も、専修大学商学部会計学科昭和52年卒であり、自分の先輩であります。自分の夢である「学校の先生」の大きなお手本のひとつとしてまず、この菊池秀雄先生の存在がすごく大きいです。

学校の先生、ましてや進路を決める大事な時期の高校、という場所。率直に言うと、自分にどこまでのことが出来るのか、すごく不安でもあり、いろいろな感情が織り混ざります。正直な話、僕はこの専修大学北上高等学校の教員採用試験を、一度は落ちました。それで東京の某会社に就職が決まり、そこでしばらくは社会経験を積もう、と思っていました。しかし初任者研修も佳境を迎えていた4月7日、先程述べた母校の菊池秀雄先生からお電話をいただき、「こんな時期に急に申し訳ないが、小野の教育実習内容を見て、やはりお前の力を借りたくなった。そっちの会社を辞めてこっちへ来ないか」と、簡潔に言うところのような感じで電話をいただき、誘われました。

正直、すごく悩みました。あんなに悩んだのは生まれて初めてだったと思います。ぶっちゃけ相当泣いたりもしました。お付き合いしている女性や、すごく大事な友

達が関東にいたからです。でも2日間悩んだあげく、やることにしました。なぜってそれは夢だったから。4月10日の朝に就職していた某会社の人事部長の方に退職する旨を伝え、準備期間として1ヶ月の時間をいただき、5月14日から「学校の先生」をやり始め、現在に至っています。結果的に言うと、すごく恵まれたんだなぁと思います。

現在僕は担任業務も持っていませんし、クラブ顧問も持っていません。ただし司書教諭の免許を持っているので、学校図書館の業務を勉強しがてら覚えています。司書というとなかなか静かなイメージがありそうですが、実は体力勝負の業務が多々あることに気づき、そこは専門分野なのでファイト一発です。また、副担任は1クラス持っており、担任の先生が出張で不在の日がかなりあるので、担任業務を行うこともあります。今やらなければいけないことは何か、そして今出来ることは何か、常に頭において行動しているつもりでも、やはり難しいものです。

物事には全て優先順位、というものがあります。こと「学校」と

いう場においてなによりも最優先に考えなければならないのは、言うまでもなく「生徒」だと思います。しかし、この3ヶ月の経験からして、常にそうあることはすごく難しいものだと感じました。ましてやクラブ顧問や担任業務もまだ本格的にやっているわけではない自分でさえそう感じるのですから、これからもっと難しくなっていくんだろうなぁと思います。でもいつまでも「最優先に考えなければならないことは何か」ということを念頭に置いて行動していけるように、自分なりに頑張っていきたいと思います。

今、自分は多くの仲間や先生方、そして生徒に助けられ、なんとかかかんとかやっています。自分が生徒に教えてやれること、それは大好きな音楽や、自分たちなりの音楽や、大好きな女性や、大好きな仲間や、家族から教えてもらったことなんだろうなぁと思います。もはや生徒一人一人がライバルです。誰にも負けるつもりはありません。そんな感じです。だらだらと長い文章、最後まで読んでいただいてありがとうございました。お互い頑張っていきましょう。



教員採用試験体験記「学生の時期だからこそ勉強を」

山形県真室川町立真室川中学校教諭 村上 康広（平成12年 文学部人文学科卒業）

4 月からはじまったと思ったら、あっという間に1学期が終わり、2学期が始まりました。新採用で2年の担任・生徒会も持たせていただき、多忙ながらも充実した日々を送っています。

私は大学院を経て、講師などの経験もなく採用されたわけですが、実際に学校現場で仕事をして確信したことがあります。それは「講師をして、さらに採用試験の勉強もするのは至難の業である」ということです。「講師を何年かやって経験をつんで…」という甘い考えは捨てたほうがいいと思います。それほど、特に中学校は激務です。講師をして且つ、合格する人は学生時代の積み重ねがあつてのことだと思います。時間のある今だからこそ必死に勉強しておく必要があると思うのです。

1. まずはペーパーテストができないと話にならない

採用試験に「人格」や「教師としての適性」といった観点をより重視する風潮があるように錯覚しがちですが、まずはペーパーテストができないと話になりません。どんなに意欲があってもペーパーテストができていなければ、その意欲を見てももらえないと考えたほう

がよいと思います。実際私は半年の間、1日4～7時間の勉強時間を確保しました。結果として1次試験を通過したのは、山形県のみでした。ちなみに半年の間1日約10時間確保した人は、3つ1次試験を通過しまし

た。大学受験並みの勉強が必要だということです。

2. 面接（集団討論）は戦略を持って臨む

まずは、受験する所がどのようなスタイルで面接を行なうのかを調べ、それに合わせて自分はどのようにアピールするのかを時間をかけて考えます。短時間で言いたい事をまとめなくてはならないため、アドリブではまず話になりません。事前に練りに練っておく必要があります。集団討論では、自分が話し合いの中でどのようなポジションをとるのかを考えておかなくてはなりません。（例えば、話し合いを進める役など）現役生の場合、「話にうまく乗って話を広げ



のがよいと思います。（自信のある方はどんどん前に出てもよいと思います。）

3. 使えるコネは何でも使う

特に面接や小論文ですが、使えるコネは何でも使うべきです。そしてなければつくっていくことも必要だと思います。面接や小論文は訓練するしかありません。小論文は教授の力を借りてもよいでしょうし、面接はより実際に近い人に練習してもらうのがよいでしょう（教頭、校長、教育委員会関係）。私は運良く、市教育委員会の人とつながりをもてたことが面接での力になったと考えています。とにかく緊張やプレッシャーに慣れておく必要があります。そのために自分の持っているコネは何でも使ってください。

これだけのことをこなすことができるのは、時間のある今しかありません。とにかくすぐに動いてください。「大学受験並み」にペーパーテストの勉強をし、自分を磨く意味でもいろいろな場に顔を出し、経験をつみ、人に伝わるようにまとめてください。今もっている「思い」をかたちにするために「今」がんばってください。



ソフトテニス部の学生と（下段左が村上先生）

る役」が望ましいと思います。（現役生は議論の仕方、話の内容が弱いことを想定してのことです。）話の流れに沿って自分の意見を述べていくことを心がける

教員採用試験体験記「夢を叶える覚悟を」

武田 美樹（平成15年 文学部英米文学科卒業）

「私 は夢を叶えてこの教壇に立っています。」



2次試験の面接、新1年生への挨拶というテーマで、私はこう始めました。

教員採用は依然として厳しい状態です。何年かかるかは努力と運だと思えます。教員になる！という夢を叶える覚悟をしてください。これは自分自身が努力しなければならぬという覚悟だけではなく、何年も周りの人々に協力してもらうという覚悟、教員として生徒に対する責任を負う覚悟です。私はこの覚悟を大事にし続けなければならないと思っています。

・勉強を続けるために

「なぜ教師になりたいのか」「どういう教師を目指すのか」しっかりと自分なりの信念を持ってください。そのためにどういう勉強をすべきなのかを考えてください。全ての人に有効な勉強方法はないと私は思います。合格している人は採用試験の勉強を1日10時間以

上、あるいは少ない時間を上手く使って集中して勉強しているかのどちらかです。どちらにしろ多大な努力をしています。独学でも学校へ通うにしても、結局は自分の努力次第です。私は1度独学で採用試験を受けた後、実践的な力が足りないと感じました。それ以来専修大学の教職教育学研究会『たまごの会』に所属し、体験学習や事例研究など実践的な活動をしています。また、同じ目標を目指す仲間と切磋琢磨して採用試験の勉強もしています。

・どこまで勉強をすればよいのか

どこまでも勉強しましょう。これをやったら合格！というラインはないので、できる限りが原則です。頂上が見えなくてうんざりしてしまうかもしれません。私は運よく2次試験を2回経験できたので、その経験から特に必要だと思う力を3つ挙げます。

1 専門の力

英語力は筆記でも、実技でも必要とされます。筆記の場合、TOEICの点数が高ければ免除になる都道府県もあります。また、英語力を高めるという点でも受験を

しておいた方がいいと思います。実技では、簡単な質疑応答から英語での模擬授業などコミュニケーションがとれるか、という点を見られているように感じました。日ごろから、英語を話すことに慣れておく必要があります。

2 文章力

私は小論文を書くということを経験したことがありませんでした。そのため1番苦労しました。最初は悪文の連続でしたが、たまごの会の仲間や教授に批評してもらうことで上達することができました。書くことに慣れるということと、誰かに読んでもらうことは重要だと思います。

3 指導力

生徒指導は経験を積むことが必要です。それは教育現場だけでなく、生徒指導に関する本を読んだり、誰かとロールプレイをすることでも経験になると実感しました。

教員になるという夢を叶えることは大事ですが、その向こうに生徒たちがいることを忘れないで勉強していきましょう。

教職・教育学研究会－たまごの会－

教職・教育学研究会の目的

本研究会は、素敵な教師に「なり」、そして「成長する」ことを目的として立ち上げた研究組織です。

教師としての指導力向上、教員採用試験の突破、そして豊かな教育実践を創造するネットワーク形成、以上3点を狙いとしています。

活動

指導力を伸ばすための教育方法演習と 採用試験突破のための問題演習を中心に活動しています。

応募資格

教職1本であること。月1回の定例会に全日程参加できること。

その他

活動日・活動場所・研究会入会方法は教務課・二部事務課資格課程係で確認してください。

教員採用試験体験記「採用試験」

群馬県立館林商工高等学校教諭 津久井 孝明（平成14年 経済学部経済学科卒業）

採用になり、群馬県立館林商工高校に赴任し、最初の夏を迎えた。5ヶ月間を振り返ると、あっという間に過ぎ去ったことに気付いた。1時間の授業を進めるための難しさ、考査問題作成（配点含む）生徒指導、部活動指導など、数え始めるときりがないほど、教師という職業の難しさを実感した。しかし、それに勝る教師の楽しさや喜びを、生徒から与えられていることも実感している。私の、2度の採用試験受験の体験が、これから採用試験を受験する方の役に立つことができれば、お世話になった専修大学の役に立つことがあればと思い、体験記を書くことにした。

まず、採用試験の内容を理解することが必要だと思う。私が受験した群馬県では、1次試験は7月の第2日曜日頃で、一般教養、教職教養、教科ごとの専門教養、400字程度の小論文、集団面接。2次試験は8月の終わり頃に1次の合格者を対象に個人面接、集団討論、800字程度の小論文という内容であった。1度目の受験は在学中であり、教育実習の直後であった。問題の傾向を研究することなく、教育実習期間などは、実習での教材研究や、準備に追われ、時間がなく、はっきり言うともったく勉強していない状態で試験に臨んだ。

結果は、不合格であった。しかし、受験したことによって、どのような試験の形式か、周りはどのくらい勉強しているか、自分自身は試験に向けて何をしたらよいかなど、次への道が開けた気がした。不合格になり、

その後、地方公務員臨時採用という6ヶ月ごとの契約の教諭に申し込むが、その結果が出る前に民間企業（総合病院での事務職）への就職が決まり、民間企業で働きながら教員採用試験の合格を目指すことにした。企業にとって、早期退職は大変迷惑なことだとはわかってはいたが、教員になった時には、企業での経験を生かした教育・指導ができるように手を抜くことなく頑張る決意で入社をすることにした。地公臨の方や学生など、周りの受験者に比べ、勉強をする時間がなくなるので、企業での内定が決まった時点ですぐに、次の試験に向けて勉強をはじめた。1度目の失敗から、試験の情報を入手することの大切さを知り、自己分析をしたり、同志と勉強会や、情報交換会を定期的（週3回）に行うことにした。また、通信講座に申し込み、勉強をすることにした。

入社すると、朝7時半から仕事が始まり、遅いときには夜の11時を過ぎることもあり、当直ということで月に2・3回、泊りで仕事をすることもあった。予想以上に勉強時間がなかったため、何冊もの問題集をこなすよ



生徒と同じ目線で

り、同じ問題集を何度もやるようにした。寝る時間を少なくして勉強をして、仕事の休憩時間で前日の勉強の確認をするなど、今年も駄目ならこれ以上の努力はできないというくらいに勉強をした。一般教養問題集、教職教養問題集、専門教科問題集、過去問題集を各10回ずつ以上は繰り返し行い、最後は表紙やページが破れてしまい、問題まで暗記するほど勉強した。試験前には模擬試験など受験して、志願者の数や、その中での自分の位置を確認し、ラストスパートをかけた。1次試験に合格し、2次試験の対策として、面接や集団討論の情報を入手し、同志と練習を重ねた。また、大学の教職の授業でお世話になった先生に論文の添削などをしてもらい勉強をした。面接や集団討論では、長くならず、要点をついた答えをはっきりと、論文では最初の5分くらいをシーキングタイムとして構成をしっかりと練った教育論文を書くことに重点をおいて受験した。

私の経験から採用試験合格のために大切なことは、情報を仕入れて傾向を研究すること。同志を見つけともに頑張ること。悔いが残らないよう、嫌になるくらい勉強すること。この3点である。本気で教師を目指すなら必ず合格を手に入れられる。



津久井先生の授業風景

教員採用試験体験記

埼玉県立所沢西高等学校教諭 曾田 正彦（平成13年経営学部情報管理学科卒業、同15年経営学研究科修了）

今年（2003年）4月に、本校では数年ぶりの新任として、早4ヶ月が経とうとしている。今のところ、教員生活には非常に満足している。給料もいいし、福利厚生も充実している、仕事で家に帰れない日などまず無い、なにより日々、生徒と触れ合うことで、また新たな視野を持てることが非常にうれしい。今日は、教員を目指す皆さんにエールをこめて、教員の生活について、そして採用試験について、簡単にアドバイスをしたい。私の数少ない経験からだけに、参考になるかどうかかわからないが、これはと思うことは是非自分の中に取り入れて自身の未来に活かして欲しいと思う。

教員の生活について

教員の生活について色々調べている人も多いだろう。不況の最中であって、クビになる心配がほぼないこと、給与が安定していることなどは十分ご存知だと思う。しかし決して楽ではない。なぜなら私たちは、24時間常に教員であり続けなければならないからだ。

教員の生活というものは一見、自由であるようで自由でない。教員の仕事は大きく分けて、教科指導、校務分掌、部活動等の特別活動の3つである。教科指導は自身で教科目標を立て、それに応じて授業をプランニングし、フィードバックを行なう。自由度が守られ、やりがいもある。それに引き換え、分掌や成績処理などの業務は、決められた時間までに決められた形式で仕上げなければならない。部活も参加は自由でありながら、今までともに休めた土日など無いに等しい。しかし、教員の労働環境が他の仕事に比べて厳しいかといえば、決してそうではないと思う。命令をする上司もいなければ、12時を越えて仕事をするようなことも無い、多くは自身の裁量に任されている。私の場合は、特に新教科ということもあり、色々な意味で学校側に任される部分が多く、その責任の重さとやりがいを感じる。

採用試験の内容

大きく分けて、以下の4つに分類され

る。私なりに傾向と対策を考えてみたので参考にして欲しい。

・一般、教職教養

ご存知の通り、もっとも億劫な試験であり、最も意味の無い試験であろう。特に教職教養の教育法規、教育心理はただただ覚えるだけの内容である。いかに短い時間で多くのことを覚えていくか、浅くキーワードを拾い取るかが重要だ。決して深い知識が求められるわけではない、体系化して理解できればそれに越したことは無いと思うが、むしろそれよりは他の試験の対策に多く時間を割くべきであろう。

小論文

「教師の資質」、「教師に求められるもの」、「理想の教師」、「生徒とのかかわり」などテーマは現場についての内容に限定される。求められるのは自身の問題に対する認識と論理的な解決法である。教師にはマニュアルが無い、教師の数だけ指導法も存在する。是非、早い段階から問題を提起し、その対策を800字程度にまとめてみるべきだろう。文章力は思考力につながる、経験談は簡単に文章に書けるのに、考えたことのないことを文章にすることは非常に難しい。普段から新聞や雑誌等の教育問題に気を配り、自身の対応を考えておくべきだ。そして、教職関連の先生方に添削をしてもらうことでさまざまなアドバイスが得られるだろう。

・専門試験

今までの取り組みが結果となってそのまま現れる。ただ「情報」については、内容が非常に多岐にわたることから、全ての内容に精通している人は珍しいと思う。時間が無い人は、手を広げず、各自の専門を活かして、試験に臨むべきだ。その場合、いかに実際の授業で指導していくか、指

導法もまとめておくといよい。指導要領にもできる限り目を通すべきだ。

・面接試験

全ての総括になる。まずは、教師になりたいという自身の強い意志、また小論文でまとめた諸問題への自身の意見と対応、専門教科への取り組み、それらを簡潔に伝えるということだ。また、面接はその場その場の対応力と思われがちだが、予想される質問への対応、自己アピールは、事前に準備できることであるし、突拍子の無い質問にもその内容を活かせば、対応できるはずだ。決して下を向いたりせずに、はっきりと自信を持って自分の考えを伝えよう。

最後に

近年の傾向として、指導力のある教師、説明能力のある教師が現場に求められている気がします。具体的には確固たる強い教育観念、教科への高い専門性を持つこと、そしてそれをうまく周囲に伝える伝達技術といったところでしょうか。最後の1点については、家庭や地域との連携が求められる背景があるからです。今後も、更に家庭教育はなおざりになっていくでしょう。その中で、地域社会をいかに学校教育に巻き込んでいくかが、今後の教育活動にとって不可欠になります。そのために試験でも小論文、面接試験といった説明能力への配点が高いのかもしれませんが、熱意があっても、それをうまく伝えることができれば意味が無いということです。

長くなりましたが、皆さんが近い将来、教育現場でご活躍できることを心から祈っております。



曾田先生の授業風景

教育実習を終えて（社会・地理歴史）

実習校：新潟県立新発田高等学校 新潟県新発田市立第一中学校 文学部人文学科4年 佐藤 圭

私は高校と中学校の2つの学校で教育実習をしました。新潟県立新発田高校に2週間、新潟県新発田市立第一中学校に1週間の日程でした。実習全体を通しての感想は、実習に行ってきたということです。生徒が温かく歓迎してくれて毎日が充実し、学校に行くのが楽しみなほどでした。でも、楽しいことばかりではありませんでした。授業を失敗することも多く、自分自身の力不足を痛感することもありました。

新発田高校の実習では、実習前に指導教諭と何度も連絡をとり、どの単元を授業するかをあらかじめ聞いていました。そのため教材研究はかなりやっていたと思います。板書の例を作り上げ、説明することなどもすべて自分の授業ノートに書き込み、そのまま実習に臨みました。だから、高校ではスムーズに授業を進めることができました。他の実習生は教材研究で追われているなか、私は放課後毎日生徒と話をしたりして、交流を深めました。その結果生徒と仲良くなり、授業中手を挙げてくれたりしてだいぶ助けてもらいました。

私にとって、高校の実習はとても成功したものだといえました。その翌週すぐに、中学校の実習となっていた私は、高校の成功からなんとなくものだという妥協がうまれていました。教材研究もそれほどしていらず、準備不足のまま中学校の実習を迎えました。

中学生は高校生と違って、やはり少し子どもな面がみられます。授業中に関係のない質問をいきなりしてきたり、さらに、高校と違い学力の差が激しいです。ついて

これる生徒とついてこれない生徒を扱うのが非常に苦労しました。それは実習初日に気がつき、ギャップを感じました。しかし、なんとかなるだろうという気持ちがまだ私の中にはあり、そして初めての授業が道德でした。結果は大失敗に終わりました。携帯電話についてというテーマで、電車の中を再現するというロールプレイを行いました。生徒は好き勝手に話し、私はそれを止めることができず教室は無駄地帯となっていました。この日の反省会では、指導教諭は



中学校での教育実習（中央が佐藤さん）

こうなることはわかっていたが覚えてやらせてみた、と言っていました。ここで目を覚ました私は、高校での睡眠時間は6、7時間であったのに対し、この日から3時間ぐらいの睡眠に切り替え、教材研究に取り掛かりました。

私は2年生社会科の歴史の授業を受け持ち、鎌倉時代のあたりをやりました。ここでも、高校とのギャップがありました。中学生は話し中心の授業やつまらなくなると、もろに態度に出していきます。おもしろくないと思った途端に生徒は寝たり話しをしたりして、実習生という立場では注意もできず、非常に辛い状態となります。そこで私はどうすれば生徒が授業に集中してくれるのかと考え、思いついたのが資料の提示です。授

業は話すだけの聴力だけを攻めていてはだめであって、資料を見せるという視力も同時に攻めることが大切なのです。しかし、その資料の出し方も注意しなければいけません。たくさんの資料を出して、授業中あっちの資料を見てはこっちの資料を見るという形式をとると、それに、ついてこれる生徒とついてこれない生徒が出てきます。それではいけないので、その授業のポイントとなり、かつ印象深い資料の一つ提示します。私はその資料を探し出すのに教材研究の8割を費やしたと言っても過言ではありません。

このように苦労しましたが、最後の研究授業では生徒はとても楽しみながら聞いてくれました。この授業のために50時間ぐらいかけたのを覚えています。最終日は色紙と花束をくれてとてもいい思い出ができました。私は高校と中学校を経

験しましたが、違いがとてもわかった3週間でした。どちらが辛かったと言えば中学校の方が辛かったのですが、やりがいがあったのは中学校の方でした。教育実習というのは頑張れば頑張るだけ成功すると思います。そして、その頑張れる源は生徒という存在があるからです。これから実習に行くみなさんはそれを頭に入れて実習に臨んでもらいたいと思います。



高校での教育実習（左が佐藤さん）

教育実習を終えて（社会）

実習校：岩手県胆沢町立若柳中学校 法学部法律学科4年 内田 智子

私は5月26日から3週間、母校の若柳中学校に教育実習に行ってきました。振り返ってみると、実習前はものすごく不安で憂鬱でしたが実習が始まると面白い出来事がたくさんあって楽しかったです。生徒が、とにかく素直で可愛い！

と言っても実習が始まって1週間は、生徒の前で自己紹介をしたり、給食と一緒に食べたりと慣れないことばかりで緊張しましたし、生徒に何を話しかければいいのかわからず悩んでいました。私の場合、教壇実習を通して徐々に生徒と打ち解けていったと思います。

私は、クラスは2年A組を、教壇実習は2年生の歴史を担当させてもらいました。授業参観で指導教諭の授業を見学しながら「こんな感じで進めるんだな」と大体の流れをつかんでおきました。そして、いよいよ教壇実習初日。この時は自分が50分教壇に立っているか不安でした。しかし、あっという間に時間は過ぎ

て予定の範囲まで進まず、生徒に何を教えたいのかわからない授業になってしまいました。このことから、教材研究が不十分であったことを痛感し、もっと早くから教材研究をしておくべきだった、と反省しました。また、私の授業は、どうしても説明中心の授業になってしまい指導教諭から何度も指摘を受けました。このため、指導教諭と一緒に発問を考えたり、私が考えた発問を先生に見てもらったり、生徒の活動が多くなる授業にしようと必死でがんばりました。その努力もあって、授業は少

しずつ良くなっていったと思います。それから、私は歴史の授業が楽しくなるように、よく絵を描いていきました。歴史の授業はどうしても眠くなるし、私には面白い豆知識もないので、その代わりとして、発明家の絵を描いたり、ペリーの絵を描いていたりして少しでも授業に興味を持ってもらおうとしました。これは生徒からも評判が良かったです。こんな授業があったらいいな、と生徒の気持ちになって考えることも大切だと思います。



2列目中央が内田さん

教壇実習はなかなか上手くできず落ち込むこともありましたが、指導教諭が親身になって指導してくださったので、私は前向きに授業に取り組みました。日誌に「教壇実習は着実に進歩していますよ」と書かれてあった時はとてもうれしかったし、他の先生からも「何十年も教師をしてる私でも、満足のいく授業なんてあまりないのだから、落ち込まずに！」と励ましの言葉をもらい、失敗を恐れずに授業に向かうことができました。また生徒が私の授業に協力してくれたので、めげずにがんばれたん

だと思います。生徒のみんなには本当に感謝しています。

授業以外でも生徒と触れ合う機会がたくさんありました。朝と帰りの短学活、道徳や総合的な学習の時間、学活などに参加させてもらいました。朝の短学活は生徒に伝える事項が多角的確に言うのが難しかったし、伝える事項が少ない時には何か自分で話さなければならず大変でした。学活では花壇の水やり当番を決めたりして楽しかったです。また、家庭学習ノートやあゆみ（生活記録日誌）の点

検もさせてもらい、必ず一言コメントを書くようにしていました。私のコメントを楽しみにまっている生徒もいるので、私も何て書こうかと交換日記をしているようで、毎日楽しみでした。それが生徒とのコミュニケーションにもなったと思います。

実習最終日、生徒がお別れ会を開いてくれてとても感動しました。色紙をもらったり、記念写真を撮ったりと、別れが本

当に惜しかったです。生徒からはたくさんのことを教えてもらったので、がんばって本当の先生になりたいと思います。

3週間の実習は本当に楽しく、一生忘れられない思い出となりました。温かく迎えてくれた生徒や優しく指導してくださった先生方、励ましてくれた友人や家族のおかげで楽しい実習ができたと思います。これから、実習に行くみなさん、元気にがんばってきてください。楽しい実習になることを祈っています。

教育実習を終えて（国語）

実習校：神奈川県厚木市立東名中学校 文学部国文学科4年 山田 巴

実

習が始まる前は自分には教師なんて絶対できないと思っていたが、実習を終えて今、残されたものは生徒達の顔と声、そして確かに手元にある私へのコメントシートだ。他の実習生が見せてくれたそれには少しきついものもあった。私もそれを覚悟していたのだがおむね好意的だった事に驚き、また私への真摯な気持ちに対して感謝の念が湧く。たった3週間、そうえるようになったこの3週間で私がした体験はとても貴重でこの先の人生にもそうあるものではないと感じる。多くの人に支えられて学んだ15日間を振り返ってみる。

* 授業について

大部分は事前の計画通りにできたが題材について深める事ができたかというのは少し疑問が残る。どのように生徒を活かすかという事が難しく、その方法が試行錯誤だった。一年生の方では重い内容だったので個々の考えを深める事にして2年生では単発の授業だったのでそれぞれ生徒達が興味をもてそうなものを題材に選んだがやはりやり方の面で至らない事があり、指示がうまくなく、失敗してしまった。ゲームが面白いと感じられるのはルールがしっかりしている上で初めて思える事で、細部までしっかり練ることの重要性を改めて感じた。全体的に効果的なやり方というものができなかった事が反省として残る。

実習前に想像していたように難しかった内容は段落分けの部分である。いろいろな意見が出たものをある程度方向へとむけていかなければいけないのだがまとめるのに結構時間がかかり、また強引にやったので生徒を混乱させてしまった。

実習の多くの時間、担当教諭が指導のために見に来てくれていた。そのため授業時間内に至らぬ点を多々フォローしてもらえた。やはりグループワークなどをさせる時に一人の先生だけでは生徒に個別に対応できず、2人先生がいると満遍なく指導ができるということだ。1人1人に指導をしたほうがよい書写の授業の時は特に数学や英語のT・T少人数授業のような対応があるとよいと感じた。

* 道徳について

事前に先生の考えの押し付けにならないようにと大学の授業でも、担当教諭からも言われていたのだが、最終的に自分の考えを押し付ける形になってしまった事が残念。国語の授業でもそうだが、予想しない答えが出て来た時にそれをどのようにその授業の内容へと近づけていくかがとても難しい。生徒自身に深く考えてもらう事を目的にするのだが、国語的になってもいけないしうまく生徒の考えを出させ、主題へと導く事ができなかった。

* その他

私の母校は私が中学一年の時に

他の中学と分離をした。その為私の中学校生活は一年の時に7クラスだったものが2、3年は3クラスとなんとも寂しいものとなり、現在は2クラスの学年が2つで全校で計7クラス、市内で一番の生徒数が少ない学校となっている。生徒同士は上も下もあまりなくとても仲良くしているしまた先生方の授業もそれに合ったきめ細やかなもので少人数指導が更に少人数で行われていて贅沢だなあと感じられた。自分が中学校時代にこんな教育を受けたかったというものがそこにはあった。生徒主体の「学び」を見た気がして少人数教育についての考えが新たになった。

実際に教師という立場に立って実感したのは、生徒達をどう活かしていくかというのはやはり先生次第だという事だ。たった数日間ではあったが自分が学生の立場では反対の先生という立場にも立てた事は大きく勉強になった。また教育というものについて生身の生徒と接して感じ、考える事もできた。「こどもが主役」と言っていた先生の言葉が耳に残る。



前列右が山田さん

教育実習を終えて（英語）

実習校：茨城県真壁町立桃山中学校 文学部英米文学科4年 吾妻 雅世

3 週間という期間はとても短く感じ、実習の毎日はとても充実したものになりました。私は実習生として母校の中学校に訪れた実習の最初の日は今でもよく覚えています。朝の会で担任の先生に紹介されて、生徒たちの前で自分の紹介をし、生徒たちの目を見て話そうと思っていましたが、なかなかうまくできなかったです。生徒は私のことを楽しみに待っていたそうです。

私は2年4組のクラスで生徒たちと関わることができ、朝の会や帰りの会の運営を行い、清掃の時間には一生懸命に取り組み、生徒にも頑張ろうという気持ちを持たせることができたと思います。実習校では週に一回昼休みの時間を長く設けていて、私も生徒と一緒にバレーボールをし、汗を流しました。生徒とのコミュニケーションを取ることは学校の中のいろんな場面であって、クラスの生徒とは“あすなる”というノートを通して生徒一人一人の理解に努めました。生徒が普段どんなことを考えているのか、私の知らないことが分かってきて生徒との距離が縮まったように感じました。生徒との関係をつくっていくことは生徒理解に努めていくという点だけではなく、実際に授業を進めていくにあたって、大切なことであると思います。

私は中学2年生を担当して1クラス20人前後に少人数指導の授業が行われていました。自分が中学生のときとは指導の形態が違っていて生徒一人一人と教師が接する時間が多く、一人一人の個に応じた指導をすることができる点において授業をすることはとてもやりやすかったように思います。私は授業を行う際にコミュニケーション

ン活動の場を実際に生徒たちの関わりのある事柄と結びつけて導入して指導していきましました。この少人数指導のクラスは生徒の自主性を尊重するために、能力別クラスではなく、できる生徒からできない生徒までが一緒になっていたのので、現場の英語教師たちはできない生徒に付き添ってあげて、英語嫌いをなくす、英語嫌いをつくら

ない指導を行っていました。授業での生徒の反応はクラスによって違っていて、生徒の雰囲気や英語の取り組み方も様々でした。授業に興味を示さない場合もありました。そこでどのように充実させていくのかを考えていくことが大切なことであると指導を受けました。学級の実態を把握し、指導法を考えていかなければならないということを学びました。生徒の英語に対する興味をより持たせるため、また基礎力をつけるために私が中学生だったときにも行われていた学校全体で取り組んでいた英語のスプリングコンテストやスピーチコンテストでは、生徒の英語に対する意識が高かったように思います。授業では生徒たちのコミュニケーション活動をどのようにしていけばいいのかということで、試行錯誤し、より活動しやすいワークシートを作成するのに時間を費やしました。教材研究の時間はとても大切な時間であって、どのように教えるのかといったことを突き詰めていき、指導に結び付けていくことの難しさを感じました。

研究授業では自分の表情は硬かったようです。授業を見学しに来て下さった各先生方から今後の参考になるアドバイスをたくさんいただきました。特に教頭先生から



前列中央が吾妻さん

のアドバイスは、これから教師を目指す私にとって、とても大切な言葉でした。教師の表情を見て生徒は授業に取り組むので、明るくいい表情をすることも教師には必要な要素であるということをお教えいただきました。私は授業をしているときに、自分の顔を生徒に見られていることを忘れていました。自分がどんな顔をして生徒の前に立っていたか、今考えてみると自分の中で表情を意識していたら生徒がどんな反応を見せてくれたのかということを感じています。英語の発音に関しては、お褒めの言葉をいただきました。

あっという間の3週間の実習を終えて、私は大きく成長できたと思っています。実習生を盛り立ててくれた実習先の桃山中学校の職員室の雰囲気はたいへん暖かく感じられました。御指導をいただいた諸先生方、ありがとうございました。実習を終えた現在も、卒業論文の研究のため、中学校には足を運んでいます。実習ではたいへんお世話になり、現在も指導教諭には御指導をいただき、とても感謝しています。熱心に指導していただいて、私は新たな恩師にめぐり合えたような気持ちでいます。私はこれから恩師に負けたくないような先生になりたいと強く思っています。

教育実習を終えて（商業）

実習校：東京都立五日市高等学校 商学部会計学科4年 藤原 拓矢

私 は6月2日から20日までの3週間、東京都立五日市高等学校で教育実習を行いました。実習前はとにかく不安でした。特に、母校での実習ではなかったため、学校の雰囲気がわからなかったことが不安でした。そんな中で、実習初日を迎えました。まず驚いたことは生徒たちがみんな挨拶ができていたことでした。一方、私は緊張していたため、挨拶の声が小さく、最初の一週間は「元気がない」ということと「教職に就こうという意気込みが感じられない」などという注意を受けました。

こうして始まった私の教育実習は、授業見学を25時間、教壇実習を6時間、自習監督を7時間させていただきました。また、ホームルームは1年生を担当しました。それ以外の時間は日誌記入や教材研究、ほかの先生の手伝い、小テストの採点などをやり、あっという間に3週間が過ぎてしまった気がしました。

実習で一番苦労したのは教壇実習でした。授業を受けるのと教えるのではまったく違うということを実感しました。

初回の授業では時間配分がうまく

取れていなかったことと、生徒を相手にした授業をしていないなどと注意を受けました。

その後の授業でも時間配分がうまく取れず、予定の範囲を終わらせることができないばかりか、ほかのクラスとの差を広げてしまいました。どのようにして生徒に理解させるかということではなく、何を教えるかということばかりを考えてしまったからこのような失敗をしてしまったのだと思います。また、生徒に合わせた授業をしていなかったことも反省しました。

研究授業では、緊張のため、頭の中が真っ白になってしまいましたが、生徒から質問が出て、授業で一番伝えたかったことを思い出しました。本当に生徒に救われた思いがしました。その後の反省会では、感動のあまり涙が出てしまいました。

その後、授業参観や主に2年生と3年生の自習監督などをしました。最終日にはSHRで生徒に挨拶をして、また涙が出てしまいました。

実習期間中はつらいことがたくさんあり、逃げ出したいと思ったことがたくさんありました。実習

校の先生方はもちろんのこと、本学の教職課程の先生や教育実習をしたことのある年上の友人などに相談をしました。しかし、次の日の朝に生徒の顔を見るとそんなことを忘れられるような気がしました。

教育実習で、授業の進め方や生徒との接し方などについて課題を見つけるところまでで実習期間が終わってしまったのが残念です。

実習前は自分が本当に教師に向いているのか悩んでいました。しかし、実習を通して教師になりたいという思いが強くなりました。また、教師の仕事は予想をはるかに越えた忙しさだということと、やりがいのある仕事であるということがわかりました。また、教師は体力が必要な職業だということを知りました。

これから教育実習に行く人に伝えたいことは、大学生活で色々な経験をし、いろいろな人に出会う経験をすれば教育実習に限らず、教師になってからも財産となると思います。

字数の関係で細かいことは書けませんでした。実際に教育実習を経験した人にしかわからない苦しみや喜びがあるのでこれから教育実習に行く人はがんばってください。



教育実習を終えて（情報）

実習校：神奈川県立港北高等学校 経営学部経営学科 4年 鹿野島 咲子

情 報という、新しい教科での実習ということで、現場の状況をほとんど知らずに挑んだ教育実習。不安と楽しみと疑問を抱きながら、初日を迎えました。

生徒として受けたことのない授業であり、現場の先生方も教科スタート初年度で手探りの状態だったので、実習中はまさに「二人三脚」。先生方と授業について話す時間はかなり多かったと思います。でも、このコミュニケーションの量が実習の良し悪しを左右する大切なものだった、という実感が今でもあります。

実習はトラブルからのスタートでした。最初の授業参観でサーバのトラブルから予定した展開が出来なくなり、生徒の集中力が一気に切れてしまう状況を目の当たりにしたのです。私は何も出来なかったのですが、そこで不安が募らず「自分が関わってなんとかやらなくては」と思えたことは幸いでした。

このトラブル後からは、授業補助をしながら生徒の目線で授業を見ていく方法を取っていきました。この方法をとることで、生徒と授業についてのコミュニケーションを通じて交流を深めること、また、

そこからより良い授業展開法を考えることの二つに大きな効果がありました。実習の授業は他の座学の授業と違って、生徒と先生のコミュニケーションなしには絶対に成り立ちませんから、授業補助の時間をうまく使うことは大きなポイントだと思います。

教壇実習では、この学校の情報科の授業では初の試みであるという「実習なしの授業」に挑みました。実習の説明でも集中できない生徒がいたのに、本当に授業が成り立つのか全く分からない状況からのスタートでした。でも、やるとなったら出来るだけ生徒が飽きずに、そして頭を使える展開を考えようとプラスに考え、「ワークシート」「ディスカッション」「具体的で身近な事例の提示」の3つのポイントを押さえた上で展開法を考えました。かなりの資料を読み、また、先生方にもたくさんの助言を受けながら作った展開でした。私は4クラス分を担当していたのですが、1クラス目は説明の仕方はあいまい、資料も量不足、さらには予定していた内容が時間内に終わらない、という散々な内容でした。しかし、先生方とも話し合いをしながら、更なる展開法・教



前列が鹿野島さん

材の改善を図ったことにより、2クラス目では予想以上の出来ばえで、研究授業当日も50分の授業時間をフルに活用し授業を展開することが出来ました。

授業終了後には情報科だけに限らず、たくさんの教科の先生から数々の指摘を受けました。中には鋭い指摘もありましたが、「情報科＝パソコン実習」というイメージをほとんどの先生が持たれていたので「新たな一面を見ることが出来た」「こういう展開もありなんだね」などというお言葉をいただき、また、担当の先生も「彼女は前人未到の授業をしたんですよ」とあちこちで言ってくださり、この展開に挑戦して本当に良かったな、という達成感でいっぱいになりました。

情報科は本格的スタートが今年度であり、実習にいく学生の多くは大学で知った教科のイメージだけで実習に行かなくてはなりません。でもこれは逆に柔軟にそして大きな可能性を持って対応する事が出来るというプラスの面もあります。他教科とは違う生徒と先生の位置付けを理解し、十分な準備とコミュニケーションを行って実習に取り組んで欲しいです。そして「頑張る」のではなく「楽しむ」事を忘れずに....。



2列目中央が鹿野島さん

二つの介護等の体験を終えて

文学部日本語日本文学科3年 小間 なつみ

特 殊学校へは川崎市立養護学校へ、6月の半ば頃に2日間体験に行きました。大学からは服装や礼儀に関して厳しい注意を受けており、その点は守ったものの事前に運動会などを見学する事も無く、当日初めて学校のほうに行くことになり大変緊張しました。緊張する事自体は悪いことではありません。気を引き締めて集中力を発揮するためには大切な事ですが、このときの緊張は悪いほうにばかり影響してしまいました。元々ある引っ込み思案で弱気なところが全面に出てしまい、冷静になることもままならないままに配属されるクラスに放りこまれてしまいました。先輩の授業を見学するという形の授業の中、私は文字通り「見学」という形で体験初日を終わってしまったのです。

見学しているだけでも学ぶべき事は沢山ありました。生徒たちのひたむきな姿勢や、教師と生徒の信頼関係、教師の対応の手際の良さ、そして学校全体の活気ある明るい雰囲気などに心を動かされました。なまじっか発見することが多いばかりに私は質問や参加のタイミングを逃し、その事が負い目に感じられました。また、教師と生徒との間に作り上げられている人間関係の中に入ることができない自分がいました。

萎縮してしまった初日の体験はとても後悔されました。体験として不十分であっただけでなく、自分の不甲斐なさに自己嫌悪に陥りました。それでもいつまでも失敗に浸るわけにはいけないので、翌日のために気持ちを入れ替えました。

二日目は音楽や体育などの授業があったこともあり、積極的に参加することが出来ました。生徒た

ちはコミュニケーションをとろうとすれば少なからず反応を返してくれ、心を開けばまたそれを感じとってくれました。教師の方々とも質問などをしていくうちにうち解けていく事が出来ました。小さい事でも非常に嬉しく感じられましたが、それは一日目の失敗があったからとも言えます。気持ちとしては良い状態で終わりましたが、もっと積極的に質問や参加をするべきだった、早くに気持ちの切り替えが出来なければとひどく悔やまれました。しかし、失敗は反省せねばいけない、反省したら生かさねばならない。行った事や感じた事は日誌や日記に書きとめ、次の体験に備えることにしました。

社会福祉施設は老人の病院・ショートステイ・デイケアが隣り合わせになっている施設でサクラプラザという施設に配属されました。四日間はデイケア、最終日はショートステイの施設で体験をさせてもらいました。私達は看護や福祉士の実習生ではなく、教職のための介護体験ということで、ふれあいを大切にしろと言われました。リハビリと体操や手芸の作業を通してうち解けて行くかたちになりました。多少は緊張しましたが、前の実習の反省もあり、積極的に行動した結果、最終日には別れが辛くなるほど仲良くなる事が出来ました。

ここでも、笑いかければ返ってくるものがあること、心を開けばその分相手も心を開いてくれること、仲良くなりたい・喜んでもらいたいと思って動くのは少しの勇気が必要だが、なんだか温かい気持ちになれることを知りました。それは俗にいう「ふれあい」なのかもしれません。しかし「ふれあおう」と思って行動したわけでは

なく、体験の中で自ずから気づく事が出来たということが大きかったと思います。

二つの体験を終えて、考えさせられた事が沢山あります。自分の弱さという個人的な事から、生きるという事まで多岐に渡ります。その中でも一番大きかったのは人と関わる事でした。

体験は、相手にしてみれば日常の中に私達がちらっとかすめていくようなものです。お互いの人生の一瞬の交差点であり、その中でいかに多くを感じ、考える事が出来るのか。また、その瞬間の中でいかに人間関係を築いていけるのか。それは、この人間社会のなかで大変大切な事であり、教師という職業は瞬間ではなく他人に関わって行く職業ではないかと思えます。

まだまだ、ものを考えていくという点でスタート地点に立てただけですが、スタート地点に初めて立ったのかもしれませんが。瞬間的なものであったとしてもそこに存在する人間関係を大切にしていきたいと切に思いました。福祉施設の実習が七夕にかかっていたため私にも短冊を書かせて貰えたので「一期一会」と書いてさげました。

私にとってはとても濃い内容の、良い体験であったと思います。

司書・司書教諭課程

Index

1	前期「資料特論」の授業から —— 専修大学文学部兼任講師 小黒 浩司	28
2	卒業生から	29
3	図書館実習を終えて	30

前期「資料特論」の授業から

文学部 兼任講師 小黒 浩司

1 授業内容について

今年度の「資料特論」では、「公貸権」を中心的な問題に設定して、授業を展開した。その理由はこの問題が、最近マスコミでもたびたび取り上げられるなど、社会的にも大きな関心を集めているからであり、今後の図書館とそのサービスに、深刻な影響を与えることになると思われるからである。

しかしながら実際のところ、「公貸権」について十分な議論も理解もないまま、問題が一人歩きをはじめている部分が少なくないように思える。そこで授業では、学生諸君にこの問題をしっかりと把握してもらうために、「出版流通」と「著作権」の二面から検討を加えることにした。

2 授業の進め方

上記のように、授業内容は時事的なものであるため、教科書は使用せずプリントを配布した。講義のレジュメがA4判12枚、加えて新聞の切り抜きなどを補助教材として用意したが、これが全部でA4判64枚になった。受講生には漫然と授業に出席するだけでなく、それら資料を参考に、自分自身で問題を整理することを求めた。

また今年度から講義概要をパワーポイントを用いて提示した。単色で文字情報が主体であるプリントを補うためである。さらに必要に応じてインターネット上の情報をスクリーンに投影した。例えば知的財産の保護等については首相官邸の、著作権制度については文化庁のホームページを用いた。

ただし神田校舎の場合、教室環境の制約からパソコンを使った授業は行えなかった。神田校舎の教室の早急な改修が望まれる。

3 2003年度の傾向

かつてこの科目の受講生数は生田・神田合計しても30名前後と少なく、またその学習態度も比較的良好であった。これは専修大学司書課程が、他大学に比べ資格取得のための最低単位数が多かったこと、またこの科目が3年次に配当されていたこと（ただし神田は2・3年次配当）によるものであろう。

ところが今年度、この状況が一変し、受講生数が急増した。年度始めの受講登録者数は、生田59名・神田18名、あわせて77名であった。2002年度の場合、生田14名・神田11名、あわせて25名であるから、前年度比およそ3倍増である。

その原因としては、2001年度のカリキュラム改定によって、資格取得のための最低単位数が減少し、学生に司書資格に対する「お手軽感」が生れたと考えることができる。さらに今年度から、生田のこの科目の学年配当が2・3年次となり、一気に受講者数が増加したものと推定される。

課程履修者の増加はある意味、たいへんよろこばしい現象である。

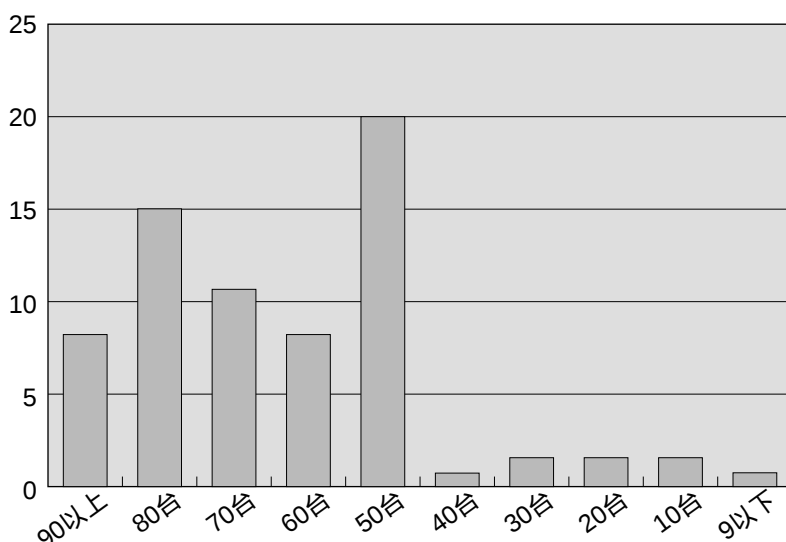
しかし授業を担当した実感としては、必ずしも手放しではよろこべないようにも思える。

4 成績について

受講者急増とともに、残念なことに、学習意欲に欠ける学生も増えた。下表は前期末試験の得点分布を10点刻みに示したものである。

試験問題は授業中に取り扱ったことから出題した。したがって積極的に授業に臨んでいれば、決して難しい試験ではなかったはずであるし、事実満点の学生もいた。だがその一方で一桁の得点しか獲得できない者もあり、著しい得点格差が生じた（なお最終的な成績は、これに出席等の平常点が加味される）。

もちろんこうした結果を生んだ原因のすべてが学生側にあるわけではない。これは授業の内容や進め方に、工夫・改善の余地が多々あることを示している。多くの学生が興味・関心を持ち、参加し、理解できるような授業を追求して、今後も試行錯誤を続けていく必要を痛感した。



ある司書の1日

東京都葛飾区立四つ木地区図書館勤務 野口 淳史（平成11年 文学部人文学科卒業）

「図書館で働いています」と言う
と決まって「ラクでいいですね」
という答えが返ってくる。ホント
は違うのにとしつつ、つい愛想
笑いでその場をやり過ごしてしま
う。ホントに違うんだ！というこ
とを、今日は、ある司書の1日を
通して皆さんに伝えたいと思う。

7月16日（水）仏滅

8時45分にいつも通り出勤。私
の務める図書館は小さく、利用者
も他の図書館に比べ少ないので、
開館は10時から。到着してすぐエ
プロンを着け、開館準備に入る。

開館前にやることは、他館から
入った予約本の抜き出しと、前日
使用したコピー代金の集計、ブック
ポストに返された本の返却、届
いた朝刊を新聞棚に置くことと、
そして書架整理。この日の出勤は、
職員1人に私を含めた非常勤2人そ
してパート1人。それぞれが分担
して開館準備にあたる。

私はこの日9時半から小学校へ
の学級訪問（読みきかせ）がある
ため、ブックポストの返却を済ま
せてから、練習に入る。手袋人形
を使ったカラスのお話と、絵本2
冊、紙芝居1つを読む予定。特に
カラスの話は素話しながら演じる
ので念入りに練習。すると電話が
鳴り、取ってみると学校から。「今
日プールなので中止にして下さ
い」。「1ヶ月も前から用意したの
に…」とがっかり。でもこんなこ
とはよくある話。

そうこうしているうちに10時開
館。私は午後のカウンター当番な
ので事務室で仕事。ヤングアダ
ルト担当なので、夏休みに紹介す
るお薦め本のデータ入力やら装
備（分類ラベルを貼ったり、本全体
をブッカーで覆ったり）をする。数
が多く（15冊位）悪戦苦闘。する
と半分ほど終えたところで、他区

からFAXで相互貸借の依頼が。作
業を中断し検索すると在庫がある
ので書架へ行き、手続きして送る。

終わると同時に「○○の本な
い？」とレファレンス。よくよく
聞いてみると○○の長女が書いた
本で書名も著者名も分らないとの
こと。「○○」で探しても出てこな
いので、時間をもらってインター
ネットで「○○ 長女」と入れ検
索。するとようやく判明。他館に
あったので予約を入れてもらう。
その後溜まった返却本の配架をし、
気付いたらもう12時。しばし休憩。

1時になり今度はカウンターへ。
しばらく貸出・返却。お年寄りや
子ども連れの主婦が多い。1時間
ほど経って交換車が到着。今日は
段ボール3箱分が戻ってきた。い
つも通りの量。これを3人で書架
に戻し、午前のカウンター当番が
予約の電話連絡。戻ってきた本の
配架は約30分で終了。「 の本
はどこですか」といった簡単なレ
ファレンスに答えつつ時間は過ぎ
る。

3時の15分休憩を挟み、再びカ
ウンターへ。すると学校帰りの小
学生が大勢。顔見知りが多く子
ども達も馴れたもの。見つけるなり

集まってきて、色々話し始める。
これをカウンターの仕事をこなし
つつ聞く。子どもの相手をしてあ
げるのも大切な仕事。この間子ど
もの宿題の本探し、検索機の使い
方指導、書架案内等で館内をめま
ぐるしく動き回る。

そうこうするうちに4時。下校
時刻となり子ども達は雲霞の如く
去って行く。まさに台風の去った
後。書架はめちゃくちゃ、本はい
たるところに散乱。これを他の職
員が必死に戻している間、私はカ
ウンター。暇かと思いきや、閉館
1時間前は大忙し。貸出・返却は
ひっきりなし。予約も倍増。閉館
前に何故かみんな慌てて出してく
行く。いつも「もっと早く来て出
てくればいいのに」と心の中で
思う。無我夢中でやっているうち
に5時。閉館。

あっという間に1日が終了。皆
で閉館準備を済ませ「今日も忙し
かったね」と言いつつ帰路に着く。
そして帰りの電車にひとり揺られ
ながら思う。「早くあがれるのは
いいけど、結構忙しいんだよなあ」
と。さて、皆さんはどうお感じに
なったでしょうか？



図書館の1日体験をした子供達と一緒に写したもの（後列中央が野口さん）

図書館実習を終えて

実習館：千葉県浦安市立中央図書館 法学部法律学科4年 廣島 聡子

浦

安市立図書館で2週間の実習を行いました。昨年の授業で、初代浦安図書館長を勤めていた方が講師をされていて、そこで私の「図書館」の見方が変わり、図書館見学に行った時、考え方が根付いていると思って希望を出したのでした。無事に希望を聞いて頂け、浦安をお願いすることになりました。

実習生は6人、今では貴重な時間を共有した大切な友達になっています。始めは緊張していましたが、図書館にいる方はどことなく雰囲気をもっているものです。実習前打合せで担当してくださる方にお会いした時、一目で安心しました。

実習が始まる前は、レファレンスカウンターに入って難しい質問がきたらどうしようと不安もありましたが、図書館員のエプロンをつけていてもカウンターや書架に出る機会は土日の決められた時間以外に、そんなに多くはありません。安心したような少し淋しいようなでした。

開館までの時間は配架を見るための書架整理をして、その後の時間は3コマに分けて現場を案内されながらの講義形式でした。こと細かな日程を組んでいただいて、レファレンス、児童、リクエストから、電算管理、メンテナンスまで、各チームの担当の方から直接お話が聞けました。授業で聞いている内容でも、現場で職員さんから聞くのでは全くニュアンスが違って聞こえます。

図書館での仕事という利用していない人にとっては、カウンターに座ってピピッとデータを読み取り、本を片付けるだけというイメージしかないかもしれませんが、ところが実際の図書館の仕事はな



実習した仲間と 後方中央が廣島さん

かなか多岐に渡っているものです。

浦安に来て良かったねと言われた事がありました。ここでは他の図書館ではしていないようなサービスも多く、勉強になることが盛りだくさんでした。

院内貸出し自由の病院サービス。大学図書館の市民開放と連携。大活字本や布の本を提供するハンディキャップサービス。意外に多い留学生などへの多文化サービス。浦安に関するニュースを毎日スクラップして地域資料としての保存と、行政にも即時提供しています。折込みチラシまで保存してあって、意外に利用されているそうです。

図書館の持つ一面には授業ではあまり聞かないこともあります。独立して見えるものの、図書館は行政機関のひとつです。予算は市民の税金ですから厳正に扱われなくてははいけません。当然、庶務の方がいます。また、サービスを知ってもらうための展示、運営状況の報告をするプロモーション的な活動もあります。

とにかく仕事はキリがないほどあり、中央館だけで64万冊ある資

料をよく管理できるなぁと思ってしまいます。そのなかでこんなにサービスが多いのは、様々な理由があるにしろ、利用者への情報提供をものすごく追求されているからだと思います。

最後に図書館の存在理由というテーマでブレインストームを行いました。出版流通の諸問題や法制度など、いろんな角度からの見解がありますが、それを踏まえて「人には知る喜びがある」という結論になりました。現場にいと、それが良くわかるそうです。

聞いているだけでは分からないこと、中からでないとい形になって見えてこないことがあります。自分で見て考える、体験するというのは何にも勝る知識だと思える、楽しい実習でした。

図書館実習を終えて

実習館：新潟県金井町立金井図書館 文学部国文学科4年 野々 真知子

私は新潟県佐渡島の金井町立金井図書館で14日間図書館実習を行いました。

佐渡島は、東京都の1.5倍の面積に人口約7万人が住む、日本一大きな島です。島内には1市9町村もあり、訪れる人のほとんどが島の大きさに驚きます。島の産業は農業では米作り、果樹栽培が盛んで、おけさ柿が特産です。水産業ではカキやワカメの養殖、また佐渡は4分の3が山林で森林資源も豊富でナラ原木のシイタケ栽培の生産量は県下一です。「無名異焼」で知られる窯業など、伝統工芸も多くある、海の青と山の緑が美しい、自然いっぱいの島です。

金井町は島の中央に位置し、2004年度に市町村合併により佐渡市になると市役所が置かれることに決定しています。平成4年には「生涯学習の町宣言」をし、図書館活動も積極的に取り組まれています。

佐渡で実習をしようと思ったのは、自分の故郷であることと、アルバイトをしている川崎市立の図書館とは違う、小さな町の図書館

の業務を体験してみたかったからです。金井図書館は延床面積1,144平方メートル、蔵書10万冊の、島で一番大きな図書館です。職員は館長1名、司書が2名の計3名で、臨時の職員が2名、日替わりで手伝いにきてくれています。

実習の内容は、開館準備にはじまり、カウンターでの返却・貸出、書誌データの入力、本の装備、廃棄本の処理や書庫への編入作業、相互貸借、予約・リクエスト本の処理、複写サービスなど、日常業

務の一通りです。

書架整理や、返却本の配架はレファレンスにもつながる、重要な作業だと実感しました。一人で黙々と本を棚に戻しているようですが、書架の配置を覚え、どんな資料があるのか関心を持ちながら作業していると、利用者に声をかけられたとき、コンピュータ検索だけでなく、人間の勘が役に立つ場合もあります。また、職員の方のレファレンスを手伝わせてもらいながら、利用者の要求を正確に把握すること、また、その要求を満たす資料を適切な時間で提供するには、資料をよく知ることが大切なのだと感じました。



カウンター業務を行う野々さん

実習は毎日が新鮮で充実していましたが、中でも楽しかったことは、本の展示コーナー作りと、子供たちへの読み聞かせです。

展示コーナーは「秋」をテーマに風物、行事などに関する本を集め、職員の方々に選書のヒントや、来館者の傾向、展示の仕方のアドバイスなどを教えてもらい、栗やどんぐりのレプリカ、落ち葉などを飾って展示しました。ひとつの事柄に偏らないように、本の内容にもバラエティがあるように心が

けましたが、実際に並べてみると自分の感覚に偏っている気がして、資料に対して広い視野を持ち、図書館の傾向や地域住民の生活も考えて選書するのはなかなかむずかしいものでした。出来上がったコーナーで利用者が足を止めて、本を借りていってもらえるとうれしく感じました。

読み聞かせでは、本の持ち方、絵の見せ方、ページのめくり方とその速さなどの指導を受けて練習もしましたが一回目は緊張しました。ボランティアのおじさんの紙芝居と司書の方の読み聞かせを子供たちと一緒に楽しみながら勉強させてもらいましたが、そのとき

の子供たちの表情はお話の中にすっかり引き込まれていて、本当に楽しそうでした。二回目は少し落ち着いて、自分も本を楽しむくらいの気持ちで読みました。次の日、私の読み聞かせを聞いてくれた二人の女の子が「今日はこれ読んで」と本を持ってきてくれたことがとてもうれしかったです。

勉強して知っていることと、実際に経験す

ることは大きく違います。働いてみて初めて見えてくることや、実感として自分に残るものがたくさんあります。「地域性を活かして、住民のニーズに応えられるような図書館づくりは施設の立派さではなく、職員の力」という司書の方の言葉が印象的でした。

職員の方々のあたたかいご指導と利用者の人たちに支えられて充実した実習を行うことができ、良かったと思います。

学芸員課程

Index

- 1 小さな町のささやかな資料館物語 34
——専修大学法学部教授 高木 侃
- 2 館務実習さまざま（2）実習館のポリシー 36
——専修大学経営学部教授 内田 欽三
- 3 博物館実習を終えて 37

小さな町のささやかな資料館物語

法学部 教授 高木 侃

かつて上野国勢多郡新田庄徳川郷（現在の群馬県新田郡尾島町徳川）に縁切寺満徳寺があった。鎌倉の東慶寺と並んで日本に2つ、しかも世界に2つしかない縁切寺であった。「徳川」は鎌倉時代以来の地名で、今でも大字として残っている。江戸幕府を開いた家康は、先祖新田氏の末裔として、実はこの地名にちなんで「徳川」と称した。尾島町が「徳川氏発祥の地」と称するゆえんである。徳川家は先祖ゆかりの満徳寺を手厚く保護したが、満徳寺は檀家をもたず、徳川家の庇護にのみ依存していたので、幕府崩壊後の1872（明治5）年に廃寺してしまう。その後、本堂は縮小移転され、徳川区民の集会所としてかろうじて当時の面影を忍ばせるに過ぎなかった。

尾島町は人口14,000人余の小さな町であるが、満徳寺の歴史的かつ文化的意義にかんがみて、平成4年に資料館を建設し、同年10月28日開館にこぎつけた。2年後には本堂や門・塀などを復元し、縁切寺満徳寺遺跡公園と称している。小さな町としては総計8億円余を投じた事業であるが、「縁切寺の里」整備計画ができあがったとき、ちょうど平成元年の「ふるさと創生」で、ふるさとづくり特別対策事業に採択され、補助金4億円がもらえたからできたといえる。

その資料館に私は請われて初代館長（非常勤特別職）に就任した。満徳寺研究一筋で、満徳寺の宣伝マンを自他ともに認める私がこの計画に当初からかかわったこと、もう1つの縁切寺東慶寺の前住職井上禅定師や現住職井上正道和尚

との長年のお付き合いがあったことなどによるものである。このとき研究が机の上の研究に終らず、社会的活動に寄与できることは研究者冥利に尽きるというべきであるから、しっかりおやりなさいと励ましてくれたのが恩師・石井良助先生（元・日本法制史担当の本学教授で文化勲章受章者）であった。

世界に2つの縁切寺というだけで、東慶寺の宝蔵（資料館）と並んで、十分に特異な資料館といえる。とはいえ、館長になってまず考えたことは、他の博物館・資料

館でもと熱弁をふるい、採用された。最初、笑って相手にしなかった設計会社が、最後は一番熱心に取り組み、資料館では最重要な収蔵庫を半分つぶしたかたちで造った。この厠（かわや＝トイレ）は写真でみるとおり、右に白（縁切り用）左に黒（縁結び用）の水洗便器が並んでいる。幸せは悪縁と縁を切らなければ訪れませんというのが、この厠のコンセプトで、水溶紙でできた特殊な「縁切り・縁結び札」に願いごとを書いて、この厠に流していただくのである。たとえば、浪人・不合格と縁切り→志望

大学・高校と縁結び

独身と縁切り→結婚
と縁結び

肥満と縁切り→スリムと縁結び

わずらいと縁切り→健康と縁結び

などと。札ははじめ少し縮んで、すぐに広がって溶ける。この「縁切り・縁結び」祈願のお客様がもっぱら資料館のリピーターで、かつ入館者増と

500円の「縁切り・縁結び札」の売上に貢献していただいている（注文は電話・ネットでもできる）。

第2は、開館にあたっての電話番号選びである。局番は0276-52で、下4桁をNTTからきた番号のなかから「2276」を選んだ。語呂合わせで、「夫婦になろう」「夫婦仲むつまじく」となるからである。資料館の前で縁切寺だからやめよう、などといったカップルには結婚できる資料館ですよ、と声をかけて入館してもらうことにしている。

第3に、いろいろなグッズである。開館の式典で記念品を配ることになった。何にしようか迷って



エントランスホールにて実習生と

館とのさらなる差異化、つまり特色あるものにしたいということであった。なぜなら、資料館へ公共交通で来るとき最寄駅は東武伊勢崎線世良田駅で、そこから徒歩45分もかかり、しかも駅前には観光用の無料自転車が10台あるだけで、バスもタクシーもない。この地の利の悪さをカバーするにはよほど特色がなければならないわけである。

第1に、遊び心で利用していただくこと「縁切り・縁結び厠」を設置したことである。これは館長になる前に建設委員会で提案したのであるが、雑誌「Hanako」の特集記事なども提示して、ぜひひ



縁切り・縁結び罎

いるとき、雑誌“ダ・カーポ”1992年7月号の特集「30歳の出会いと別れ」に私は「かつて夫から妻へ渡された離縁状『三くだり半』は男の美学だった」という小文を掲載した。その号にたまたま「ビールを最高に楽しむ」という特集もあり、フィンランドの東郷ビールに発想をえて、輸入ビール代理店がライセンス契約で、その東郷ビールに幕末のヒーロー12人のラベルを張って売り出していた。たとえば、竜馬、西郷、勝などのほか、一番売れ筋（早慶の関係者の注文が多い）の大隈・福沢もある。そこで交渉の結果、家康のイラストとローマ字TOKUGAWAのラベルを貼った「徳川ビール」をつくった。その後、縁切りビール・縁結びビール、千姫ビールにつづいて地酒「新田徳川」も。新田という字は極小に書いてあるので徳川としか読めないが、実は徳川（とくせんと読む）という酒が宮城県にあり、同じ文字・徳川は商標登録できないので苦肉の策である。これらの酒類は春秋の企画展のとき、税務署の特別許可をえて、受付で販売している。さらに寺社の交通安全にならって「交通事故・交通違反と縁切りステッカー」もある。

第4に企画展の充実。これが資料館としては1番重要なものであり、縁切寺であったことから、「三くだり半」の企画展がメインである。これまでに行った特集名だけを列挙する。

縁切寺満徳寺本堂復元1周年記念『女の書いた三くだり半』・縁切寺満徳寺

資料館開館3周年記念『一行半から十四行半まで - 三くだり半の行数 - 』・『勝手につきの三くだり半 - 三くだり半の離婚理由 - 』・『東北の三くだり半 - 三くだり半の地域性 - 』・『三くだり半のはんこ』・『武士の三くだり半 - その夫婦像 - 』・『三くだり半の受取書 - 離縁状返り一札 - 』・『明治の三くだり半 - 上田四郎コレクションを中心に - 』・『三くだり半の呼び名 - 離縁状の表題 - 』・『縁切寺の三くだり半 - 鎌倉東慶寺を中心に - 』・『京阪の三くだり半 - 三くだり半の地域性 - 』・『切られた三くだり半 付各地の縁切り絵馬』・『満徳寺離縁状』

この秋は第15回「別れなかった夫婦 — 帰縁証文 —」で、詫びる妻たちを企画し、パート は来秋

「先渡し離縁状」を書いた、詫びる夫たちを予定している。そのほか、イベントとしては特別展、徳川大学を冠した公開講座、春の落語会、秋の薩摩琵琶の会、狂言の夕べなど盛りだくさ

んである。それらはHP（満徳寺で立ち上がります）で見ることができます。乞う、ご高覧。

第5に、私も1998年2月学芸員資格を取得した（もちろん学位と経歴による無試験認定であるが）。なぜなら、資料館には専任職員が2名、資格者はうち1名で、最近では資料借用に際して学芸員資格を要求されることがあり、資格者に不都合があると困るからである。

第6に、資料館のみならず館長としての私も売り物にして、新聞・メディアへの働きかけにつとめている。ここ数年は毎年全国紙の紙面をかざっている。

資料館は開館後10年を経過した。これまで縁切寺満徳寺の歴史的役割、女性からの離婚制度の再認識、尾島町の知名度向上ははたせたので、次の10年にむけて、現在の女性救済のための具体的活動、たとえば海外団体・研究者とのネットワークづくり、NPOとの連携、さらなる情報発信など種々の活動を始めなければならないと思っている。

最後に資格取得を目指す諸君へ一言。研究・学問（勉強・仕事におきかえられる）は愉しむもの。そうすれば自ずと道は開ける。

（縁切寺満徳寺資料館長）



駈込門からみた本堂

館務実習さまざま(2)ー実習館のポリシーー

経営学部 教授 内田 欽三

教

職課程に教育実習(教生の先生という、例のあれ)があるように、学芸員課程に登録した学生にも「館務実習」があります。これは、「博物館実習」を履修するための前提となる必修単位を取得した後、この「博物館実習」の一環として同一年次に行うのが、その館務実習というものなのです。

具体的に何をやるのだろうか?学芸員資格を目指すあなたなら、そこところが、当然ひどく気になることでしょねえ。でも、答えは簡単です。つまり、一定期間、実際の博物館(広い意味での博物館です)に通い、そこで体験学習をやるのです。とはいえ、実物資料の取り扱い、図書資料の整理、受付業務、来館者への説明、果ては展示企画の立案から実際の展示作業まで、実習館によって、この館務実習の内容は様々。しかし、だからこそ、館務実習は大学の教室では到底学べない《本物》が学べるのです。

どうです、なんだか面白そうでしょう。教室の椅子にただ黙って座り、眠たくなるような講義を聞きながら、「たくもうー、早く終らねえかなあ、この授業なんてよ」なんて胸の中でボヤいているよ

り、自分の體を使って、実際に博物館の中で活動するんですからね。しかし、《好事魔多し》、と昔から言うように、良いことばかりではないのが世の中の常なのです。つまり、館務実習には《とても面白い部分》とともに、《きわめて厳しい面》もあるのです。今回は実際に聞き取りをした二つの館の実情について、少しお話ししましょう。

一つ目は柏崎市立博物館。新潟

県柏崎の駅からタクシーなら十五分程度、赤坂山公園という緑多い環境の中にある博物館です。こちらでは、館務実習希望の学生をまったく無条件に受け入れてくれます。何とありがたい館だ!しかも、民家調査、拓本、土器整理など実習内容もとても豊富。ところが問題は、「探検教室」という講座の班長を務めなければならないという点。すなわち、八月の第一週、小学校五、六年生たちを引率し



新潟市美術館正面

て、一泊二日の体験学習に出掛けるのですが、その仕事を手伝うというのが、何と実習の一環というわけ。つまり、実習生がいきなり先生役をさせられるのです。これはかなり骨が折れますね、きっと。

二つ目は同じく新潟県の新潟市美術館。わたしが館を訪れたときも、子供達の指導の手伝いや、学芸員による美術館観覧者へ説明の見学を行っていました。実習生たちは、けっこう楽しそう。こちら、在住地域や大学の学部などに無関係に受け入れてくれます。涙が出るほどありがたや!ただし、やる気のある学生に限るとのこと。資格を取ればいい、という学生はお断りだとか。しかも、「座っていれば、授業が進むと思うな」「自分が学ぶつもりで来るのでなければ、何も学べないし、こちら、あえて教えないよ」と担当学芸員の厳しいお言葉。

どうです、館務実習って、けっこう大変そうでしょう。でも、だからこそ、身になる勉強ができるのです。さまざまな実習館の持っているポリシーは、学芸員資格を取得し、さらに社会人になろうとしているあなた方にとって、重要な意味があること、これでお分かりですね。



新潟市美術館展示室

展示解説する学芸員と、それを聞く入館者の皆さん。実習生たちはこの後方で見学。

博物館実習を終えて

実習館：出光美術館 文学研究科日本語日本文学専攻修士課程2年 井黒 佳穂子

美術を専攻していないということもあり、実習前にはかなり緊張していた面もあったが、実際に学芸員の仕事を体験していくうちに新しいことを学ぶ楽しさを少しずつ感じられるようになっていった。一週間という本当に短い期間だったが、ガラス清掃、図書整理作業、列品解説、作品の取り扱いと展示作業実習、展覧会企画案プレゼンテーションなど実践的な演習を行うことができ、学芸員の仕事というものの一端を垣間見ることができたように思う。例えば最初に行った展示ケースのガラス清掃も単なる美的景観を維持することだけが目的ではなく、清掃をしながら作品に向き合

い、その特質や美質をじっくり観察できる大切な時間であることを知った。ガラスケースを拭きながら作品を見てみると、普段は見ることができない角度から作品を観察できたり、今まで気付くこともなかった面にふと目を留めることもあり、作品を多角的な視点から見ることができた。

博物館実習3日目に行った列品解説では野々村仁清の「色絵熨斗文茶碗」を解説した。どうということ来館者に伝えれば良いのかという点で戸惑ってしまい満足いく解説ができず、その翌日出光美術館の学芸員が行うギャラリートークを聞かせていただいた。作品の作者、制作年代、形状、図柄など基本的なデータから発展させて、作品の美質、作者がどういう人間であったのか、どのような人間が享受したのか、作品の用途など様々な面からアプローチされていて、何より来館者が興味を持って

作品を見ることができるように話す技術が素晴らしいと思った。その反省を踏まえ5日目の展覧会企画案プレゼンテーション発表で、私は「説話と絵巻の中世」というタイトルで説話と絵巻の関わりを中世という時代を通史的に見ていくことをコンセプトに企画して



絵付け体験教室の様子

たが、絵巻を除く他の作品をどのように選択し、関連づけて配置するかという点で非常に苦心した。実際にプレゼンテーションをしてみると、作品の選択においては評価されたものの、館内の動線と絵巻を見る方向が食い違っている点を指摘され、来館者が作品を見る方向にまで考えが及ばなかったことに気が付き、改めて展覧会を企画することの難しさを知った。

また、作品の取り扱い、展示作業の方法、注意点に関する諸事項はビデオによる学習で学び、その後実際に作品のレブリカなどを使って演習したが、つい作品を雑に扱ってしまい注意されることが何度もあった。またテグスと釘を使用して茶碗の展示も練習してみたが、土台の中心を正確に計り、固定する位置を決める

など配置にも細心の注意を払っていた。テグスを茶碗の中央で交差させることが難しく、調整を誤るとテグスが緩んでしまい、台を傾けたときに展示した茶碗が落ちてしまうので一点の作品を展示するのにも大変に苦労するということを実感した。

7日間の博物館実習を終えてみて、あまりに学ぶことが多く忙しい日が続いたが、同時に充実した楽しい内容だったと感じている。学芸員の仕事を具体的に見ることができ、また実際に自分が体験することができて、とても有意義な時間を過ごせたと思う。さらに資料の扱い方や保存方法など自分が研究する上で欠かすこ

とのできない大切な知識を学ぶことができたのは大きな収穫だった。実習後も出光美術館で主催する絵付け体験教室の手伝いに参加する機会を得て、素焼きの皿に呉須で絵を描くという指導をしたが、来館者に本物を見せることで作品の素材や性質を学習することができる学芸員の教育者としての側面もあらたに見えてきた。出光美術館での博物館実習で学んだことを将来の自分へと活かしていけるように今後も勉強を続けていきたいと思う。



博物館実習を終えて

実習館：国立音楽大学楽器学資料館 文学部英語英米文学科3年 坂内 公美

私は十日間、国立音楽大学楽器学資料館にて館務実習をさせて頂きました。まず、館で用意した課題シートを一日一枚作成しました。課題シートの内容は“所蔵品管理”“環境管理”“対外活動”“展示”“保守”についてと、課題に取り組むことによって資料館での資料を巡る活動を、自然と把握できるような仕組みになっていました。課題はまず、与えられた資料や館で所蔵する書類、時には資料展示室そのものを参考にして作成します。そして一通り出来あがったところで館の方にチェックしてもらい、自分で調べたが今一つよくわからなかった点や勘違いしてしまっている点などの補足も兼ねて説明を受けました。自分なりに一度よく考えた後で説明を聞くので、より一層理解が深まったように思います。実際に館で使用してきた書類・資料展示室そのものを参考にした課題作成・説明は、実際の館の運営を感じることができて大変ためになりました。課題の作成や説明を受けるために、資料館展示室には何度も足を運んだのですが、その度に発見があったのには自分でも驚きました。例えば、照明・展示方法・環境設定など視点を変える度に発見があるのです。それは決して大きなものばかりではありませんが、だからこそ私は

自分の目で発見・確認することが重要なのではないかと思うと同時に、そのためにまずはじっくりと観察して考えることが必要になってくるのではないかと思います。そういった自分の目で観察して見えてきたこと・確認できたことがあってこそ、本や講義で学んだ知識というものも、より一層生きてくるのではないかと思うのです。

課題の作成と並行して、開館日には開・閉館準備及び受付作業の補佐を行いました。普段来館者として訪れれば、資料そのものに気をとられて恐らくあまり気に留めずに通り過ぎてしまうと思われるような裏方の仕事の大切さを改めて感じました。例えば展示ケース一つをとっても開館前に一つ一つ丁寧に拭いていたり、鍵盤楽器などケースに入れない大型の楽器については、開館日以外は一つ一つその型に合わせたカバーを掛けていたり...当り前のこととはいえそうかもしれませんが、そういった裏方の着実な取り組みがあってこそ



(資料：国立音楽大学楽器学資料館)

の補佐も行わせて頂きました。インド古典音楽の楽器～シタール・タブラー・パカーワジ～と題し、講師の先生のレクチュアとインドから招いた演奏家の方々の演奏から構成されるレクチュアコンサートの開演は夕方でしたが、当然ながら開演当日は一日がかりでコンサートの準備に全力でとりかかります。演奏家の方々の控え室の準備、コンサートの会場となるスタジオのセッティング等の準備を、迅速かつ的確にこなしていく館のスタッフの皆さんの姿はとても印象的で、学芸員としてのこのコンサートに対するそれまでの入念な準備や思いが伝わってくるようでした。私も来場者に配るパンフレットの製本や会場の受付準備を手伝うなど、学芸員スタッフの皆さんの働く中で“現場の空気”にふれるという大変貴重な機会に恵まれたことをありがたく思います。館を通して一つの催しを行うということは、学芸員にとって多くの責任と労力を要することですが、それ以上にやりがいも大きいということが何よりも伝わってきました。今回の実習を通して見えてきたこと、感じたことを忘れずに、これからの生活に生かしていければと思います。



(資料：国立音楽大学楽器学資料館)

デ ー タ 編

Index

1平成14年度資格課程履修者数	40
2平成14年度教員免許状取得状況一覧	41
3平成14年度実習先一覧（教育実習）	42
4平成14年度実習先一覧（図書館実習）	45
5平成14年度実習先一覧（博物館館務実習）	45
6主な就職先一覧（教職）	46
7主な就職先一覧（司書・学芸員）	48
8平成14年度資格課程年間行事表	49
9平成14年度資格課程教員紹介	50

平成14年度 資格課程履修者数

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教 職	経 済	経 済	44	7	52	11	31	2	46	5	173	25	198
		国 際 経 済	15	-	9	-	9	-	12	-	45	-	45
	法	法 律	47	9	49	17	44	8	42	3	182	37	219
		経 営	32	-	32	-	35	-	8	-	107	-	107
	商	情 報 管 理	-	-	2	-	1	-	1	-	4	-	4
		商 業	46	6	43	7	33	6	31	8	153	27	180
	文	会 計	6	-	2	-	6	-	3	-	17	-	17
		国 文	-	-	-	-	33	-	37	-	70	-	70
		英 米 文	-	-	-	-	27	-	25	-	52	-	52
		人 文	45	-	36	-	26	-	34	-	141	-	141
		心 理	4	-	3	-	4	-	1	-	12	-	12
		日 本 語 日 本 文	48	-	73	-	-	-	-	-	121	-	121
		英 語 英 米 文	40	-	32	-	-	-	-	-	72	-	72
		ネットワーク情報	28	-	21	-	-	-	-	-	49	-	49
職	大 学	院	26	-	-	-	-	-	-	-	26	-	26
	科 目 等	履 修 生	-	48	-	-	-	-	-	-	-	48	48
	小 計		381	70	354	35	249	16	240	16	1,224	137	1,361
	合 計		451		389		265		256		1,361		

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書	経 済	経 済	5	1	8	3	2	0	0	0	15	4	19
		国 際 経 済	0	-	3	-	0	-	2	-	5	-	5
	法	法 律	9	4	4	2	5	1	4	5	22	12	34
		経 営	3	-	4	-	4	-	2	-	13	-	13
	商	情 報 管 理	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	3
		商 業	4	2	3	1	2	4	1	0	10	7	17
	文	会 計	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
		国 文	-	-	-	-	19	-	9	-	28	-	28
		英 米 文	-	-	-	-	0	-	3	-	3	-	3
		人 文	19	-	13	-	5	-	7	-	44	-	44
		心 理	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
		日 本 語 日 本 文	33	-	42	-	-	-	-	-	75	-	75
		英 語 英 米 文	7	-	4	-	-	-	-	-	11	-	11
書	ネットワーク情報	ネットワーク情報	4	-	1	-	-	-	-	-	5	-	5
	大 学	院	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
	科 目 等	履 修 生	-	7	-	-	-	-	-	-	-	7	7
	小 計		86	14	82	6	38	5	30	5	236	30	266
合 計			100		88		43		35		266		

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書 教 諭	経 済	経 済	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	4
		国 際 経 済	0	-	0	-	1	-	1	-	2	-	2
	法	法 律	2	0	0	3	1	1	2	1	5	5	10
		経 営	0	-	1	-	0	-	1	-	2	-	2
	商	情 報 管 理	-	-	-	-	0	-	1	-	1	-	1
		商 業	7	0	4	0	3	0	2	2	16	2	18
	文	会 計	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
		国 文	-	-	-	-	6	-	9	-	15	-	15
		英 米 文	-	-	-	-	1	-	0	-	1	-	1
		人 文	3	-	9	-	8	-	3	-	23	-	23
		心 理	1	-	1	-	2	-	0	-	4	-	4
		日 本 語 日 本 文	12	-	14	-	-	-	-	-	26	-	26
		英 語 英 米 文	0	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1
教 諭	ネットワーク情報	ネットワーク情報	2	-	0	-	-	-	-	-	2	-	2
	大 学	院	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4
	科 目 等	履 修 生	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6	6
	小 計		31	6	34	3	22	1	19	3	106	13	119
合 計			37		37		23		22		119		

	学部・学科	年次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学 芸 員	経 済	経 済	3	2	6	2	2	0	6	0	17	4	21
		国 際 経 済	0	-	2	-	3	-	2	-	7	-	7
	法	法 律	5	1	3	1	3	1	2	0	13	3	16
		経 営	1	-	5	-	6	-	2	-	14	-	14
	商	情 報 管 理	-	-	-	-	0	-	1	-	1	-	1
		商 業	1	0	2	0	3	1	2	1	8	2	10
	文	会 計	1	-	0	-	0	-	2	-	3	-	3
		国 文	-	-	-	-	24	-	12	-	36	-	36
		英 米 文	-	-	-	-	0	-	2	-	2	-	2
		人 文	29	-	45	-	23	-	34	-	131	-	131
		心 理	1	-	2	-	1	-	1	-	5	-	5
		日 本 語 日 本 文	8	-	22	-	-	-	-	-	30	-	30
		英 語 英 米 文	3	-	6	-	-	-	-	-	9	-	9
員	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	-	2	-	-	-	-	-	2	-	2
	大 学	院	6	-	-	-	-	-	-	-	6	-	6
	科 目 等	履 修 生	-	7	-	-	-	-	-	-	-	7	7
	小 計		58	10	95	3	65	2	66	1	284	16	300
合 計			68		98		67		67		300		

平成14年度 教員免許取得状況一覧

		免許種類	中学一種				高校一種				中学専修				高校専修				合計					
			社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民	商業	国語	書道	英語	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史		公民	商業	国語	英語	小計
生田	一部	経済学科	29			29	24	30					54											83
		授与件数	26			26	18	25					43											69
		国際経済学科	4			4	4	7	1				12											16
		授与件数	2			2	3	5	1				9											11
		経営学科							7				7											7
		授与件数							5				5											5
		情報管理学科							1				1											1
		授与件数							1				1											1
		商業学科	10			10	10	9	14				33											43
		授与件数	5			5	4	5	8				17											22
	会計学科	授与件数						3				3												3
		授与件数						3				3												3
		国文学科		25		25					32	8	40											65
		授与件数		22		22					28	8	36											58
		英米文学科			20	20						23	23											43
		授与件数			18	18						21	21											39
研究科	人文学科	21			21	23	15				38												59	
	授与件数	17			17	20	12				32												49	
	心理学科																							
	授与件数																							
	経済学																							
	授与件数																							
	経営学																							
	授与件数																							
	商学																							
	授与件数																							
神田	小計	文学												4	1	1	6	5			1	1	7	13
		授与件数												4	1	0	5	5			1	0	6	11
	一部	授与件数	64	25	20	109	61	61	26			23	211	4	1	1	6	5			1	1	7	333
		授与件数	50	22	18	90	45	47	18	28	8	21	167	4	1	0	5	5			1	0	6	268
		授与件数	29			29	27	35					62											91
		授与件数	24			24	23	26					49											73
	二部	授与件数	2			2	3		1			4												6
		授与件数	2			2	3		1			4												6
		授与件数	3			3																		3
		授与件数	3			3																		3
研究科	商業学科	1			1	1	1	4			6												7	
	授与件数	0			0	1	1	4			6												6	
	法学																	1					1	
	授与件数																	1					1	
科目等履修生	授与件数	1			1														1				1	
	授与件数	1			1														1				1	
	授与件数																						1	
	授与件数																							
小計	授与件数	6	2	2	10	6	5	6			2	19											29	
	授与件数	4	2	2	8	3	3	6			2	14											22	
	授与件数	42	2	2	46	37	41	11			2	91						1				1	138	
	授与件数	34	2	2	38	30	30	11			2	73						1				1	112	
合計	授与件数	106	27	22	155	98	102	37	32	8	25	302	4	1	1	6	5	1	1	1	1	8	471	
	授与件数	84	24	20	128	75	77	29	28	8	23	240	4	1	0	5	5	1	1	0	7	7	380	

平成14年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	伊達市立光陵中学校	国語	文	国文
	北海道	留萌市立港南中学校	国語	文	国文
	青森県	光星学院高等学校	公民	経済	経済
	岩手県	岩手県立大船渡高等学校	公民	経済	経済
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	経済	経済
	岩手県	専修大学北上高等学校	地歴・公民	経済	経済
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	商	商業
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	商	商業
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	国文
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	文	人文
	岩手県	盛岡市立飯岡中学校	社会	経済	経済
	宮城県	宮城県築館高等学校	国語	文	国文
	宮城県	仙台市立将監東中学校	英語	文	英米文
	秋田県	秋田県立秋田中央高等学校	英語	文	英米文
	秋田県	秋田県立能代高等学校	地理歴史	経済	経済
	秋田県	秋田県立本荘高等学校	地理歴史	文	人文
	秋田県	秋田経済法科大学附属高等学校	商業	経営	経営
	秋田県	秋田市立外旭川中学校	社会	経済	経済
	山形県	山形県立酒田商業高等学校	商業	商	商業
	山形県	山形県立酒田西高等学校	国語	文	国文
	山形県	山形県立長井高等学校	地理歴史	文	人文
	福島県	会津若松市立第一中学校	社会	経済	経済
	福島県	岩代町立小浜中学校	社会	文	人文
関東	茨城県	つくば秀英高等学校	地理歴史	文	人文
	茨城県	新利根町立新利根中学校	社会	経済	経済
	茨城県	つくば市立桜中学校	英語	文	英米文
	栃木県	栃木県立宇都宮高等学校	公民	経済	経済
	栃木県	栃木県立鹿沼商工高等学校	商業	経営	経営
	栃木県	栃木県立宇都宮北高等学校	国語	文	国文
	栃木県	宇都宮市立陽東中学校	地理歴史	経済	経済
	栃木県	宇都宮市立若松原中学校	社会	文	人文
	栃木県	小山市立小山中学校	社会	商	商業
	栃木県	田沼町立東中学校	英語	文	英米文
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	公民	商	商業
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	商業
	群馬県	群馬県立高崎女子高等学校	地理歴史	文	人文
	群馬県	高崎経済大学附属高等学校	地理歴史	文	人文
	群馬県	東京農業大学第二高等学校	地理歴史	経済	経済
	群馬県	太田市立毛里田中学校	社会	経済	経済
	群馬県	高崎市立八幡中学校	社会	文	人文
	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	埼玉県立浦和西高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	埼玉県	埼玉県立皆野高等学校	商業	経営	経営
	埼玉県	埼玉県立八潮南高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	埼玉県立幸手商業高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	さいたま市立浦和高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	栄東高等学校	公民・商業	経営	経営
	埼玉県	狭山ヶ丘高等学校	地理歴史	文	人文
	埼玉県	秀明英光高等学校	国語	文学	国文学
	埼玉県	東野高等学校	英語	文	英米文
	埼玉県	武南高等学校	公民	経済	国際経済
	埼玉県	桶川市立桶川西中学校	社会	経済	経済
	埼玉県	越谷市立千間台中学校	社会	文	人文
	埼玉県	さいたま市立南浦和中学校	社会	商	商業
	埼玉県	さいたま市立土屋中学校	国語	文	国文
	埼玉県	本庄市立本庄南中学校	英語	文	英米文

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	千葉県	千葉県立千城台高等学校	英語	文	英米文
	千葉県	船橋市立船橋高等学校	公民	経済	経済
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	経済	経済
	千葉県	専修大学松戸高等学校	英語	文	英米文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	社会	文	人文
	千葉県	千葉英和高等学校	地理歴史	商	商業
	千葉県	成田高等学校	英語	文	英米文
	千葉県	旭市立第一中学校	英語	文	英米文
	千葉県	市原市立国分寺台西中学校	社会	文	人文
	千葉県	印西市立印西中学校	社会	経済	国際経済
	千葉県	木更津市立浪岡中学校	国語	文	国文
	千葉県	館山市立第二中学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	銚子市立第四中学校	社会	経済	国際経済
	千葉県	野田市立福田中学校	社会	経済	経済
	千葉県	船橋市立葛飾中学校	社会	文	人文
	千葉県	船橋市立船橋中学校	国語	文	国文
	千葉県	松戸市立小金北中学校	英語	文	英米文
	千葉県	松戸市立和名ヶ谷中学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立赤坂高等学校	商業	商	会計
	東京都	東京都立葛飾商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立北園高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京都立北多摩高等学校	公民	経済	経済
	東京都	東京都立小平高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立小岩高等学校	英語	文	英米文
	東京都	東京都立城東高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立田無高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立第一商業高等学校	商業	商	会計
	東京都	東京都立第四商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立向島商業高等学校	商業	経済	国際経済
	東京都	足立学園高等学校	英語	文	英米文
	東京都	足立学園高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	江戸川女子中学校・高等学校	国語	文	国文
	東京都	京華中学・高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	京北高等学校	国語	文	国文
	東京都	駒沢学園女子高等学校	国語	文	国文
	東京都	駒場学園高等学校	国語	文	国文
	東京都	駒込高等学校	国語	文	国文
	東京都	松蔭中学・高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	世田谷学園高等学校	政治経済	商	商業
	東京都	聖学院中学校高等学校	地理歴史	商	商業
	東京都	成徳学園高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	地歴・公民	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	商	商業
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英米文
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英米文
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文

平成14年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	東京高等学校	地理歴史	文	人文
	東京都	東京経営短大村田女子高等学校	商業	商	商業
	東京都	東京実業高等学校	商業	商	商業
	東京都	東京電機大学中学校・高等学校	社会	文	人文
	東京都	東京農業大学第一高等学校	英語	文	英米文
	東京都	東洋高等学校	国語	文	国文
	東京都	目白学園中学校・高等学校	英語	文	英米文
	東京都	足立区立第十三中学校	社会	商	商業
	東京都	江戸川区立小岩第五中学校	社会	経済	経済
	東京都	羽村市立羽村第一中学校	英語	文	英米文
	東京都	町田市立第一中学校	社会	文	人文
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史	商	商業
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立小田原城内高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立鎌倉高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	公民	経済	経済
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立二宮高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立弥生西高等学校	公民	文	人文
	神奈川県	横浜市立桜丘高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	横浜市立南高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	白鵬女子高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	厚木市立東名中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	大磯町立国府中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	平塚市立金目中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	南足柄市立北足柄中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	横須賀市立神明中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	横須賀市立長沢中学校	社会	商	商業
	神奈川県	横浜市立橘中学校	社会	文	人文
	神奈川県	横浜市立領家中学校	社会	経済	経済
	山梨県	山梨県立韮崎高等学校	国語	文	国文
	山梨県	山梨県立富士河口湖高等学校	英語	文	英米文
	山梨県	日本大学明誠高等学校	地理歴史	商	商業
	山梨県	敷島町立敷島中学校	社会	商	商業
北陸	石川県	石川県立金沢二水高等学校	英語	文	英米文
	石川県	石川県立小松明峰高等学校	地理歴史	商	商業
	石川県	金沢市立工業高等学校	公民	経済	経済
信越	新潟県	新潟県立小千谷高等学校	公民	経済	経済
	新潟県	新潟県立新潟中央高等学校	英語	文	英米文
	新潟県	新潟県立新潟南高等学校	地理歴史	文	人文
	新潟県	中越高等学校	商業	経営	情報管理
	新潟県	新潟青陵高等学校	公民	商	商業
	新潟県	新潟明訓高等学校	国語	文	国文
	長野県	長野県飯山北高等学校	地理歴史	文	人文
	長野県	長野県諏訪二葉高等学校	地理歴史	商	商業
	長野県	長野県長野吉田高等学校	地理歴史	経済	経済
	長野県	長野県松本県ヶ丘高等学校	地理歴史	経済	経済
東海	岐阜県	鷺谷中・高等学校	地歴・公民	文	人文
	静岡県	静岡県立清水東高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	商業	経営学	経営学
	静岡県	静岡県立三島南高等学校	商業	経営	経営
	静岡県	静岡県立三島北高等学校	国語	文	国文
	静岡県	聖隷クリストファー高等学校	公民	経済	経済

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東海	静岡県	静岡学園高等学校	政治経済	商	商業
	静岡県	静岡学園高等学校	国語	文	国文
	静岡県	引佐町立南部中学校	社会	商	商業
	愛知県	愛知工業大学名電高等学校	公民	経済	経済
近畿	奈良県	奈良県立富雄高等学校	公民	文	人文
中国	島根県	キリスト教愛真高等学校	公民	経済	国際経済
	山口県	小野田市立小野田中学校	社会	経済	経済
四国	徳島県	徳島県立城ノ内高等学校	地歴・公民	商	商業
	香川県	香川県立多度津工業高等学校	公民	経済	国際経済
	香川県	香川県立香川中央高等学校	国語	文	国文
九州・沖縄	福岡県	福岡第一高等学校	公民	経済	経済
	福岡県	粕屋町立粕屋東中学校	社会	経済	経済
	佐賀県	佐賀市立城東中学校	社会	経済	経済
	長崎県	長崎市立長崎商業高等学校	商業	商	商業
	熊本県	専修大学玉名高等学校	商業	経営	経営
	熊本県	熊本市立千原台高等学校	商業	商	商業
	熊本県	長洲町立腹栄中学校	英語	文	英米文
	大分県	大分県立大分舞鶴高等学校	地理歴史	経済	経済
	大分県	大分県立佐伯豊南高等学校	商業	商	会計
	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島南高等学校	商業	商	商業
	鹿児島県	鹿児島県立鹿屋高等学校	国語	文	国文
	沖縄県	沖縄県立糸満高等学校	国語	文	国文
	沖縄県	沖縄県立那覇高等学校	地歴・公民	商	商業
	沖縄県	沖縄県立普天間高等学校	公民	経済	経済

平成14年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	宮城県	仙台市立仙台高等学校	公民法	法	法律
	茨城県	竜ヶ崎市立長山中学校	社会	法	法律
	栃木県	栃木県立佐野高等学校	地理歴史	法	法律
	栃木県	野木町立野木中学校	社会	法	法律
	埼玉県	埼玉県立上尾高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	春日部共栄高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	聖望学園高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	菖蒲町立菖蒲中学校	社会	法	法律
	埼玉県	越谷市立中央中学校	社会	法	法律
	埼玉県	新座市立第二中学校	社会	法	法律
	埼玉県	春日部市立東中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県立千葉南高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立飛鳥高等学校	公民法	法	法律
	東京都	東京都立小川高等学校	公民法	法	法律
	東京都	東京都立北園高等学校	公民法	法	法律
	東京都	東京都立広尾高等学校	公民法	法	法律
	東京都	東京都立府中西高等学校	公民法	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民法	法	法律

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東 京 都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東 京 都	専修大学附属高等学校	公 民	法	法律
	東 京 都	東京文化高等学校	公 民	法学	公法学
	東 京 都	日野市立日野第一中学校	社 会	法	法律
	東 京 都	福生市立福生第二中学校	社 会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立旭高等学校	公 民	法	法律
	神奈川県	横須賀市立久里浜中学校	社 会	法	法律
	神奈川県	茅ヶ崎市立松波中学校	社 会	法	法律
	山 梨 県	山梨県立甲府第一高等学校	公 民	法	法律
	山 梨 県	山梨県立甲府第一高等学校	公 民	法	法律
北陸	石 川 県	石川県立輪島高等学校	公 民	法	法律
信越	新 潟 県	新潟県立新潟南高等学校	公 民	法	法律
東海	岐 阜 県	岐阜県立斐太高等学校	地理歴史	法	法律
	静 岡 県	静岡県立島田高等学校	公 民	法	法律
	静 岡 県	藤枝明誠高等学校	公 民	法	法律
	愛 知 県	愛知県立昭和高等学校	地理歴史	法	法律
中国	岡 山 県	岡山県立玉野光南高等学校	公 民	法	法律
九州・沖縄	長 崎 県	長崎県立諫早高等学校	公 民	法	法律
	沖 縄 県	伊江村立伊江中学校	社 会	法	法律

平成14年度 教育実習先一覧（2部）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	青森県	青森県立盲学校	商業	商	商業
	宮城県	宮城県気仙沼高等学校	商業	経済	経済
	宮城県	富谷町立富谷第二中学校	社会	法	法律
	福島県	会津若松市立第六中学校	英語	履修生	
関東	埼玉県	埼玉県立狭山経済高等学校	地理歴史	商	商業
	千葉県	千葉県立千葉商業高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	千葉県立東金高等学校	地理歴史	商	商業
	千葉県	千葉県立流山高等学校	商業	履修生	
	千葉県	習志野市立習志野高等学校	地理歴史	履修生	
	千葉県	市川市立東国分中学校	社会	法	法律

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東 東	千 葉 県	習志野市立第七中学校	社 会	履修生	
	千 葉 県	志学館中学校	英 語	履修生	
	東 京 都	東京都立清瀬東高等学校	公 民 商		商業
	東 京 都	東京都立第一商業高等学校	商 業 商		商業
	神奈川県	横浜高等学校	地理歴史	商	商業
	神奈川県	川崎市立菅生中学校	社 会 経済		経済
	山 梨 県	塩山市立塩山北中学校	社 会	履修生	
信越	新 潟 県	津川町立津川中学校	社 会 法		法律
東海	愛 知 県	愛知県立尾北高等学校	地理歴史	経済	経済
四国	高 知 県	高知市立高知商業高等学校	商 業	履修生	

平成14年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東	福島県	いわき市立中央図書館	法	法律
	埼玉県	新座市立図書館	法	法律
	千葉県	浦安市立中央図書館	文	人文
	千葉県	八街町立図書館	文	人文
	東京都	荒川区立南千住図書館	経済	国際経済
	東京都	台東区立図書館	文	国文
	神奈川県	海老名市立図書館	文	国文
	神奈川県	川崎市立麻生図書館	文	国文
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	文	国文
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	文	英米文
	山梨県	山梨県立図書館	経営	情報管理

平成14年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
東北	岩手県	北上市立鬼の館	文	国文
	岩手県	北上市立博物館	文	人文
	宮城県	仙台市博物館	文	人文
	宮城県	マリンピア松島水族館	文	国文
	山形県	酒田市立資料館	文	国文
	山形県	夕鶴の里資料館	履修生	
関東	茨城県	霞ヶ浦町郷土資料館	文	国文
	茨城県	古河歴史博物館	文	国文
	茨城県	幕末と明治の博物館	文	人文
	栃木県	栃木県立博物館	文	国文
	群馬県	高崎市少年科学館	法	法律
	群馬県	吉井町多胡碑記念館	文	国文
	埼玉県	春日部市郷土資料館	履修生	
	埼玉県	原爆の図丸木美術館	履修生	
	埼玉県	埼玉県立文書館	文	人文
	埼玉県	埼玉県立民俗文化センター	文	国文
	埼玉県	八潮市郷土資料館	文	人文
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	経済	国際経済
	千葉県	千葉県立総南博物館	文	人文
	千葉県	千葉県立美術館	履修生	
	東京都	板橋区立熱帯環境植物館	法	法律
	東京都	葛飾区郷土と天文の博物館	文	人文
	東京都	切手の博物館	文	国文
	東京都	くにたち郷土文化館	文	人文
	東京都	国際基督教大学博物館	文	人文
	東京都	国立科学博物館	経済	国際経済
	東京都	しながわ水族館	経営	経営
	東京都	たばこと塩の博物館	文学	社会学
	東京都	中央区郷土資料館	文	人文
	東京都	調布市武者小路実篤記念館	文	国文
	東京都	通信総合博物館	文	国文
	東京都	通信総合博物館	文	人文
	東京都	東京都恩賜上野動物園	経営	経営
	東京都	東京都葛西臨海水族園	文学	哲学
	東京都	中村研一記念美術館	文	人文
	東京都	八王子市郷土資料館	文	人文

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東	東京都	府中市郷土の森博物館	文	国文
	東京都	府中市美術館	経営	経営
	東京都	三井文庫別館	文	人文
	東京都	武蔵野音楽大学楽器博物館	文	人文
	東京都	明治大学刑事博物館	法	法律
	東京都	明治大学考古学博物館	文	国文
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	国文
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	国文
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	国文
	神奈川県	相模原市立博物館	文	人文
	神奈川県	シルク博物館	経営	経営
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	経済	経済
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	人文
	神奈川県	藤沢市湘南台文化センターこども館	履修生	
近畿	神奈川県	横浜市こども植物園	文	国文
	神奈川県	横浜市歴史博物館	文	人文
	山梨県	山梨県立文学館	文	国文
	富山県	富山市民俗民芸村	文	人文
	新潟県	長岡市立科学博物館	法	法律
	新潟県	新潟県立自然科学館	文	人文
	長野県	市立岡谷蚕糸博物館	経済	経済
	長野県	長野県立歴史館	文	国文
	静岡県	静岡市立児童会館	文	国文
	静岡県	静岡市立日本平動物園	商	会計
	静岡県	浜松市博物館	商	商業
	静岡県	浜松市博物館	文	国文
	岐阜県	中津川市鉱物博物館	文	国文
	三重県	四日市市立博物館	商	商業
九州	京都府	舞鶴市立赤れんが博物館	文	人文
	奈良県	奈良文化財研究所	法	法律
	山口県	山口県立山口博物館	文	人文
	高知県	高知県立美術館	文	人文
	高知県	高知県立歴史民俗資料館	文	人文
	熊本県	玉名市立歴史博物館こころピア	文	人文
	宮崎県	宮崎県立美術館	商	商業

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年度・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 11 年 度	平11 経済・経済	北海道えりも町立えりも高等学校	常 勤	公 民
	平 8 法・法律	東京都専修大学附属高等学校	専 任	公 民
	平 9 法・法律	神奈川県横浜市立深谷中学校	非 常 勤	社 会
	法・法律	千葉県浦安市立浦安中学校	非 常 勤	社 会
	平11 経営・経営	福島県立須賀川高等学校	常 勤	商 業
	平11 経営・経営	東京都立大島高等学校	専 任	商 業
	平11 商・商業	東京都立赤羽商業高等学校	専 任	商 業
	平 6 商・商業	東京都立台東商業高等学校	専 任	商 業
	平 7 商・商業	東京都立池袋商業高等学校	専 任	商 業
	平 9 商・商業	北海道歌志内高等学校	専 任	公 民
	平11 商・会計	長野県松商学園高等学校	常 勤	商 業
	平 8 文・国文	宮城県石越町立石越中学校	専 任	国 語
	平11 文・国文	大分県昭和女子高等学校	非 常 勤	国 語
	平11 文・国文	北海道紋別市立潮見中学校	常 勤	国 語
	平 7 文・英米文	栃木県宇都宮市立鬼怒中学校	専 任	英 語
	平 9 文・英米文	青森県立八戸東高等学校	専 任	英 語
	平10 文・英米文	神奈川県小田原市立白鷗中学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	岩手県立千厩東高等学校	常 勤	英 語
	平11 文・英米文	千葉県柏市立酒井根中学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	東京都正則学園高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	山梨県立ふじざくら養護学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	栃木県今市市立落合中学校	専 任	英 語
	文・人文	新潟県立南城高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 8 院文・修士	東京学芸大学附属大泉高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 9 院文・修士	栃木県立壬生高等学校	専 任	英 語
	平11 院文・修士	東京都保善高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 院文・修士	東京都文教大学附属中学校・高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平11 院文・修士	熊本県専修大学玉名高等学校	常 勤	国 語
平成 12 年 度	経済・経済	鹿児島県吾平町立吾平中学校	専 任	社 会
	法・法律	山梨県立甲府昭和高等学校	専 任	公 民
	平12 経営・経営	香川県立丸亀城西高等学校	常 勤	商 業
	平12 経営・経営	長野県赤穂高等学校	専 任	商 業
	平12 経営・経営	新潟県立栃尾高等学校	非 常 勤	商 業
	平 6 商・商業	北海道豊浦高等学校	専 任	商 業
	平11 商・商業	東京都立五日市高等学校	非 常 勤	商 業
	平12 商・商業	倉敷市立児島第一高等学校	専 任	商 業
	平12 商・商業	静岡県立小笠高等学校	非 常 勤	商 業
	平12 文・国文	福島県立光南高等学校	期 限 付	国 語
	平12 文・国文	佐藤栄学園	常 勤	国 語
	平12 文・国文	日本体育大学荏原高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 文・国文	横浜市立戸塚高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 文・国文	駒場学園高等学校	非 常 勤	国 語
	平 8 文・英米文	東京都立国分寺高等学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	松韻学園福島高等学校	常 勤	英 語
	平11 文・英米文	佼成学園中・高等学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	専 任	英 語
	平12 文・英米文	八王子高等学校	専 任	英 語
	平11 文・人文	花咲徳栄高等学校	専 任	社 会
	平12 院文・修士	専修大学松戸高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平12 院文・修士	東京農業大学第三高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 院文・修士	二松学舎大学附属高等学校	非 常 勤	公 民
	平12 院文・修士	武蔵工業大学附属中学・高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年度・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 13 年 度	平10 経済・経済	千葉県立市原八幡高等学校	非常勤	公民
	平10 経済・経済	横手市立鳳中学校	専任	社会
	平 6 法・法律	さいたま市立三室小学校	専任	
	平 9 法・法律	国分寺市立第二小学校	専任	
	平11 法・法律	尼崎市立武庫北小学校	非常勤	
	平12 法・法律	江戸川区立二之江中学校	非常勤	社会
	平13 法・法律	柏高等技術学園	専任	公民
	平10 法・法律	八戸工業大学第二高等学校	非常勤	公民
	平11 法・法律	横浜市立原中学校	非常勤	社会
	平12 経営・経営	東京都経営短大村田女子高等学校	専任	商業
	平12 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非常勤	商業
	平12 商・商業	静岡県立相良高等学校	専任	商業
	平13 商・商業	甲府市立甲府商業高等学校	期限付	商業
	平13 商・商業	静岡県立焼津水産高等学校	常勤	商業
	平12 文・国文	座間市立相模中学校	常勤	国語
	平13 文・国文	水原町立水原中学校	専任	国語
	平13 文・国文	日出女子学園中・高等学校	期限付	国語
	平13 文・国文	目白学園中・高等学校	非常勤	国語
	平 4 文・人文	えびの高原国際高等学校	専任	地理歴史
	平 8 文・人文	新潟県立巻工業高等学校	専任	地理歴史
	平12 文・人文	横浜市立浜中学校	専任	社会
	平12 文・人文	北海道羽幌高等学校	専任	公民
	平13 文・人文	流山市立小山小学校	期限付	生活科
	平13 文・人文	不二女子高等学校	期限付	地歴・公民
	平11 院文・修士	狭山ヶ丘高等学校	専任	国語
	平13 院文・修士	東海大学付属高輪台高等学校	非常勤	英語
	平13 院文・修士	新田町立生品小学校	非常勤	社会
	平12 院文・修士	熊本中央女子高等学校	非常勤	国語
平成 14 年 度	平14 経済・経済	川北町立川北小学校	非常勤	
	平14 経済・経済	神奈川県立高津養護学校	非常勤	
	平14 法・法律	一宮町立一宮中学校	常勤	社会
	平12 商・商業	東京実業高等学校	非常勤	商業
	平14 商・商業	山梨県立高等学校	期間採用	商業
	平14 文・国文	田原町立田原中学校	常勤	国語
	平14 文・英米文	正則学園高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	松任市立松任中学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	大田区立馬込中学校	専任	英語
	平14 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	非常勤	英語
	平14 文・英米文	報徳学園高等学校	非常勤	英語
	平14 院文・修士	川崎市立西中原中学校	非常勤	
	平14 院文・修士	岩手県立盛岡商業高等学校	専任	地歴・公民
	平14 院文・修士	杉並学院高等学校	非常勤	英語
	平 9 文・英米文	東海大学菅生高等学校	専任	英語
	平10 文・英米文	品川区立三木小学校	専任	
	平10 文・英米文	東京都内養護学校	専任	英語
	平11 文・英米文	柏木学園高等学校	専任	英語
	平11 文・英米文	八王子市立四谷中学校	専任	英語
	平11 文・英米文	福島高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	宮城県迫桜高等学校	専任	英語
	平12 文・英米文	青梅市立第二小学校	専任	
	平13 文・英米文	騎西町立騎西中学校	非常勤	英語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

卒業年度・学部・学科	勤務先
平 8 文・人文	東京大学法学部図書館
平 8 文・国文	杉並区立中央図書館（東京都）
平 8 法・法律	瀬高町立図書館準備室（福岡県）
昭和46 文・人文	東京福祉商経専門学校図書室
平 8 文・国文	桂村立図書館（茨城県）
昭和57 文・人文	市川市東国分中学校
平 9 文・人文	見附市立図書館（新潟県）
平 9 文・人文	女子栄養大学図書館
平 6 文・国文	下妻市立図書館準備室（茨城県）
平 9 文・国文	八街市立図書館（千葉県）
平 9 法・法律	日外アソシエーツ（株）
平10 文・国文	鷺湖書房
平10 文・国文	長岡市立中央図書館（新潟県）
平 9 文・人文	東京医科大学図書館
平11 商・商業	有隣堂
平13 文・国文	実践女子大学図書館
平13 文・国文	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
平12 文・国文	青山学院女子短期大学図書館
平14 経・経済	千葉明德短期大学図書館
平11 文・人文	葛飾区立四ツ木地区図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県一迫町役場	山武郡埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター	国立西洋美術館
下妻市ふるさと博物館	調布市郷土博物館
玉造町資料館	東京国際美術館
栃木県埋蔵文化財センター	東京都埋蔵文化財センター
栃木県立博物館	明治大学考古学博物館
群馬県埋蔵文化財センター	福井県立博物館
富岡市立美術館博物館福沢一郎記念美術館	高山市歴史民俗資料館
入間市郷土博物館	MOA美術館
鳥羽水族館	行田市郷土博物館
高松市歴史資料館	埼玉県埋蔵文化財センター
浦和市くらしの博物館民家園	逓信総合博物館
矢島町立郷土資料館	野田市郷土博物館
乃村工芸社	町田市フォトサロン

平成14年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 届 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等体験オリエンテーション	2・3・4	司書課程学生 相談会	4				
5月	上 旬	教育実習事前ガイダンス 実習希望校との内諾交渉	4 3					博物館実習事前ガイダンス	3・4
	下 旬	介護等体験事前講習会	2・3・4						
6月	上 旬	教育実習開始 （5月下旬～9月中旬）	4					博物館見学実習	4
	中 旬	教育実習登録ガイダンス	3			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司書 教諭の単位をすべ て修得した者）	4		
		教育免許状一括申請ガイダンス	4						
	下 旬								
7月	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
		夏 期 休 暇（7月下旬～9月上旬）							
8月				図書館実習	4			博物館実習（館務実習）	3・4
		夏 期 休 暇							
9月	上 旬	前 期 追 試 験（全 学 年）							
	中 旬	教育実習内諾書の提出 教員免許状授与願ガイ ダンス	3 4	司書製本講習	3・4				
10月	下 旬	教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス	2・3
11月	上 旬					司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教 諭の単位を履修し た者）	4		
	下 旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	中 旬							学芸員資格取得証明書申 請手続き	4
1月	上 旬	後 期 試 験・学 年 末 試 験（全 学 年）							
	下 旬								
2月	下 旬	追 試 験（全 学 年）							
3月	上 旬							博物館実習承諾書の提出	2・3
	中 旬	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成14年度 資格課程教員紹介

《司書・司書教諭》

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育論
経済学部	講 師	青木みのり	発達・学習心理学
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	教 授	渡部 光	比較教育学
法 学 部	助 教 授	家永 登	法律学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育論
商 学 部	助 教 授	小峰 直史	特別活動論
文 学 部	教 授	青木美智男	日本史
文 学 部	教 授	新井 勝紘	日本史
文 学 部	教 授	伊部 哲	英語科教育論
文 学 部	教 授	米田 巖	地理学
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	高橋 貢	国語科教育論
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道科教育論
文 学 部	助 教 授	出岡 宏	倫理学
文 学 部	助 教 授	高岡 貞夫	地誌学
文 学 部	助 教 授	備前 徹	国語科教育論
文 学 部	講 師	田中 正敬	外国史
ネットワーク 情報学部	助 教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク 情報学部	講 師	香山 瑞恵	情報科教育論
経済学部	兼任講師	大熊 光穂	心理学
経済学部	兼任講師	佐藤 由美	社会科教育論
法 学 部	兼任講師	岩間 秀幸	道德教育論
法 学 部	兼任講師	柏木 敦	道德教育論
法 学 部	兼任講師	関根 照彦	法律学
法 学 部	兼任講師	樋口 州男	日本史
経営学部	兼任講師	田口 康明	比較教育学
経営学部	兼任講師	東 宏行	教育職員論
商 学 部	兼任講師	井出 功孝	特別活動論
商 学 部	兼任講師	神山 安弘	社会科教育論
商 学 部	兼任講師	谷 秀雄	倫理学
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	地理学
商 学 部	兼任講師	毛利 豊史	倫理学
文 学 部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育論
文 学 部	兼任講師	小泉 仁	英語科教育論
文 学 部	兼任講師	小林 基男	外国史
文 学 部	兼任講師	齋藤 純	地理歴史科教育論
文 学 部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文 学 部	兼任講師	手嶋 将博	教育方法論
文 学 部	兼任講師	町田 洋	地理学

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	助 教 授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	教 授	後藤 暢	図書館特論
経済学部	兼任講師	中島 宏	マスコミュニケーション
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報検索
法 学 部	兼任講師	田中 功	情報検索
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	竹内 紀吉	図書館サービス論
経営学部	兼任講師	山田 節子	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	小黒 浩司	図書及び図書館史
文 学 部	兼任講師	小林 和夫	マスコミュニケーション
文 学 部	兼任講師	塚原 博	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	教 授	亀井 明德	博物館実習

編集後記

パッソ・ア・パッソ第5号が完成しました。これまでと同じように、OB・OGの教員や司書の方々、資格課程スタッフ、そして実習生諸君を中心に執筆していただきました。

職務の厳しさと仕事のやり甲斐がたくさん綴られています。また、教職、司書、学芸員という仕事にとってコミュニケーションがいかに大切か、先輩たちは教えてくれています。これから実習を体験する学生の皆さんにとって、大いに参考になることでしょう。

パッソ・ア・パッソは、資格取得をめざす本学の学生を支援するための冊子です。履修生とOB・OG、そしてわれわれスタッフの間のコミュニケーションの場でもあります。皆様からいろいろな意見をいただき、さらに充実させたいと考えていますので、是非、要望やご意見をお寄せ下さい。

なお、残念なことです。今年度もまた資格課程から伊部哲先生と後藤暢先生を送り出さなければならなくなりました。伊部先生は、高等学校及び他大学勤務の後、本学に19年間在職し英語科教員の養成に携わって来られ、多くの英語教員を育てられました。また後藤先生は、国立国会図書館勤務後、本学の司書及び司書教諭の養成に携わり、多くの司書を育てていただきました。この場を借りて、お二人のご尽力に心より感謝を申し上げたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、執筆いただきました方々に深く御礼を申し上げたいと思います。また、編集に尽力してくれました教務課資格課程のスタッフに心より感謝の気持ちを表したいと思います。

2003年11月1日

資格課程編集委員会

編集委員長 矢吹 芳洋

編集委員 内田 欽三

荻原 幸子

桐生まい子

平成14年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成15年11月30日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-1244

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL <http://www.senshu-u.ac.jp/school/shikaku>

印刷 株式会社 芳文社

〒194-0035 東京都町田市忠生1-18-18

TEL 042-792-3100